

授業科目名	教師論				
担当教員名	大槻雅俊				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれています。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚・責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では教育関連法規や教育現場の具体的な事象を取上げ、現職教員による講話をも交えて進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 教師としての基礎的資質に関する知識	目標： 児童・生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」（評価しない）とします。レポートの提出について、指示された期限を厳守しないときは受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
5回の小レポート 50%	: 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて、10段階で評価をします。
15回目の授業のなかで小テスト及び小論文 30%	: 教師としての基礎的資質に関して、独自のルーブリックに基づいて評価をします。知識理解と表現力の観点から3段階で評価します。
受講状況 20%	: 授業中の学習意欲、受講態度（受講マナーについて、私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）を、チェックリストを活用し、独自のルーブリックに基づいて総合的に評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
広岡義之	・ はじめて学ぶ教職論	・ ミネルヴァ書房	・ 2017年

参考文献等

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣
山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』ミネルヴァ書房
ほか、適宜授業で紹介いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 4限
場所： 教育第4研究室
備考・注意事項： オフィスアワーは水曜日、4限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーションと教職の意義 授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。	4時間
第2回	学校教育の現状と課題 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	4時間
第3回	教職についての社会の見方 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	4時間
第4回	求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－（現職教員の講話） 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受け入れる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。	4時間

第5回	求められる教員の資質能力(2)－教師の能力－（現職教員の講話） 教員は授業が勝負であると言われ、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。	教師の授業力を高めるための取り組みをまとめる。	4時間
第6回	教職員の種類と資格 教員の免許について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第7回	教員の身分保障 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第8回	教員研修と向上心 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種別と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第9回	教員の力量と学習指導 中学校及び高等学校の専門教科など、教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べることができるようにする。	4時間
第10回	教員の力量と校務 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生徒指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめる。	4時間
第11回	校務分掌とその実際 校務分掌の内容を、学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの校務の実際の様子と課題について理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間
第12回	学校外の職務と教員の関わり 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であることと教員のかかわりについて理解する。	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第13回	学校、家庭、地域の連携と教員の関わり 地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間
第14回	教員をめぐる事件・事故 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第15回	まとめと授業全体の振り返り 教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたる、理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。	自身が描く教師像と努力すべきことがらをまとめる。	4時間

授業科目名	教育学概論				
担当教員名	間篠剛留				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

本授業では、①わが国の教育を成り立たせている理念・思想や制度、その歴史的展開について学ぶことで、教育について学問的知識に裏打ちされた議論を行う基礎を築くと共に、②学生同士の意見交換や議論を行うことによって、教育に関する各人の考えを鍛えていくことを目指す。教育に関しては、自らの被教育経験や後輩指導の経験などを通じて、ある一定の考えをすでに持っている人も多いと考えられる。教育学の知見や他者の意見を学ぶことで、そうした考え方を批判的に問いつつ、教育を論ずる上での土台を構築することが本科目の目的である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育の理念・思想の理解	主要な教育思想家の主張を取り上げながら、教育に関する自身の考えを述べることができる。
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育制度や教育史の理解	日本の教育制度のあらましやその歴史的展開を理解した上で、教育問題について自身の考えを述べるることができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		他人の意見を踏まえて教育に関する自分の意見を伝えることができる。
2 . DP4. 課題発見		人に伝えるべき内容を整理することができる。
3 . DP10. 忠恕の心		授業を受ける側の立場を考えた上で授業を構成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート	30%	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば3点、重大な誤りや不足があれば1点とする。締め切りに遅れたら1点減点。これを全15回実施し、30%分に換算する。
ミニ授業	25%	： 2～4人のグループで、教育学のテーマに関する20分程度の授業を行う。情報の正確さ、授業の工夫の2点から評価する。授業の工夫に関しては、授業を受けた学生も評価に参加する。
ミニ授業へのコメント	5%	： ミニ授業実施の度に授業を受けた学生はコメントペーパーを書く。提出回数に応じて点数をつける。
抜き打ちテスト	10%	： 学期中複数回テストを行い、授業内容が理解できているかどうかについて各回5段階で評価する。
期末テスト	30%	： 論述式の試験を行う。用語の理解、主張の明確さと論理性、多様な意見の考慮の3点から評価を行う。語句のほとんどについて誤解なく理解し、反論を想定しながら自らの主張を書くことができれば合格水準。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・古屋恵太編『教育の哲学・歴史』（学文社、2017年刊行予定）
 - ・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）
 - ・今井康雄編『教育思想史』（有斐閣、2009年）
 - ・田中智志・橋本美保監修『教育の理念・歴史』（一藝社、2013年）
 - ・松浦良充編『現代教育の争点・論点』（一藝社、2015年）
- その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。講義を受け課題に取り組むだけでなく、新聞記事やニュース、書籍等によって教育に関する話題に積極的に触れるようようにすること。そこまで行って初めて、科目の目的が達成できる。また、履修者が多かった場合は「ミニ授業」は立候補・抽選とし、ミニ授業を担当しない学生にはレポートを課す。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜 4限
場所：	非常勤控室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで。メールアドレスは初回授業で案内します。また、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

第1回	ガイダンス—教育観を考える—	授業外学修課題にかかる目安の時間
	「よい教師とは」という問いから、グループでの話し合いを通して、各人の持つ教育観について考えます。	4時間
	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：教育のパラドックス、批判的思考）、 「今日の読み物」を読む。	

第2回	「教育とは何か」 様々な思想家による教育の定義を学ぶとともに、自分の考える「教育」ととらえ直します。	まとめノート（作成のためのキーワード：カント、ルソー、デュルケーム、デューイ）、 「今日の読み物」を読む。	4時間
第3回	教育問題を考える 教育問題は言説によって作られるということを知り、教育問題をとらえ直します。	まとめノート（作成のためのキーワード：教育言説、登校拒否・不登校、発生件数・認知件数）、 「今日の読み物」を読む	4時間
第4回	教育法規の基本 教育に関する法規の階層性について学びます。また、子どもの権利条約について学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：日本国憲法、教育基本法、学校教育法、子どもの権利条約）、 「今日の読み物」を読む	4時間
第5回	わが国の教育制度の特徴 公教育の定義について学んだ後、学校体系や教育委員会制度の基本について学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：公教育、単線型、教育委員会）、 「今日の読み物」を読む	4時間
第6回	諸外国の教育改革 新自由主義的教育改革について学ぶとともに、教育と競争の問題について考えます。	まとめノート（作成のためのキーワード：新自由主義、スタンダード、アカウンタビリティ、NCLB法）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第7回	学習指導と生活指導 学習指導との関係を考えながら、単なる「規則違反の取締り」とは異なる生活指導の歴史を学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：生活綴方教育、山びこ学校、学級集団づくり）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第8回	教育実践から考える 「いのちの授業」の実践について学び、学習指導や生活指導のあり方を考えます。	まとめノート（作成のためのキーワード：いのちの授業、いじめ、自己責任論）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第9回	教育思想と学校の歴史（１） 学習論 「学習」に関する様々な定義を学ぶとともに、自分の考える「学習」ととらえ直します。	まとめノート（作成のためのキーワード：プラトン、ロック、ルソー、条件付け、正統的周辺参加）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第10回	教育思想と学校の歴史（２） 学校教育論 教授課程の段階化・定式化、及びそうした学校教育に対する批判の歴史を学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：ヘルバルト、段階教授論、新教育運動、サマーヒル・スクール）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第11回	教育思想と学校の歴史（３） 近代学校制度の成立と展開 わが国における近代学校制度の成立と展開について、その基本的な考え方の変化に注目して学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：学制、教育令、森有礼、教育勅語、井上毅）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第12回	教育思想と学校の歴史（４） 大正自由教育 明治期の教育方法と、それに対するオルタナティブとして登場した様々な取り組みについて学びます。	まとめノート（作成のためのキーワード：ヘルバルト主義、パーカースト、澤柳政太郎、及川平治）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第13回	教育思想と学校の歴史（５） 国家主義教育と戦後教育改革 戦後日本の教育がどのように始まり、展開していったかについて学び、現代の教育について考えます。	まとめノート（作成のためのキーワード：修身、教育委員会、学習指導要領）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第14回	学校を考える 学校というシステムの特異性について学ぶとともに、学校外の教育の形について考えます。	まとめノート（作成のためのキーワード：フーコー、イリイチ、生涯学習論）。 「今日の読み物」を読む。	4時間
第15回	まとめ—改めて教育観を考える— 本授業に参加して自分の教育観がどのように変化したか／しなかったかについて考えます。また、大学教育の意味について考えます。	まとめノート（作成のためのキーワード：学士力、コンピテンシー）。 「今日の読み物」を読む。	4時間

授業科目名	教育史				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布資料を下に講義を行うが、その内容についてディスカッションを行う。なお、授業前にコメントペーパーを配布し記入し、授業後に提出して、次回に返却する。 診断的評価と形成的評価を実施する。				

授業概要

教育とは、獲得した文化的遺産を後の世代に伝え、後の世代を社会化する行為と見てよい。その意味で自分たちの先達にどのような教育思想家がいて、自分たちの受けた教育がどのような思想から影響を受けて成り立っているのかということ把握しなければならない。ところで日本における近代以降の教育制度は西欧の影響を強く受けている。よって本講義ではまず西欧教育史について概観し、その上で日本の近代以降の教育史の軌跡をたどり、教育史の基本的な知識の習得をし、その上で自らの教育を相対化できるようになることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 教育の歴史について	目標： 教育の歴史を現代的問題と関連させて考えるようになる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		歴史的相対化ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

形成的評価を用いたレポート作成	70%	: 目標に対して、授業を通じて学びが形成されているか。
学習ノート	30%	: 学習を通じて、どのような問いが形成されたか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目
場所： 研究室
備考・注意事項： 質問等は、メール：shibanuma@g.osaka-seikei.ac.jpまでご連絡ください。また、研究室にお気軽にどうぞ。

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育史を学ぶにあたって 歴史を学ぶことの意義とは？ 歴史を学ぶ事の意義を学びます。	教育と歴史との関係性を考える。 4時間
第2回	古代・中世の教育史 古代の教育史を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第3回	宗教改革とその周辺 宗教改革が教育に与えた影響を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第4回	市民革命と教育 市民革命がどのように教育に影響を与えたかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第5回	公教育思想の誕生と展開 公教育思想がなぜ登場したかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第6回	近代教育へ影響を与えた思想家たち その1 近代教育へ影響を与えた思想家の思想を学びます。(ロック・ルソーなど)	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第7回	近代教育へ影響を与えた思想家たち その2 近代教育へ影響を与えた思想家の思想を学びます。(ペスタロッチなど)	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第8回	教育の大衆化 教育の大衆化の原因を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間

第9回	教育と価値の問題 教育が近代以降どのようなものにとらえられるようになったかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第10回	新教育運動 新教育運動とは何かを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	日本教育史 日本の古代までの教育史を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	近代公教育制度の確立 日本における公教育制度の確立過程を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	大正自由教育 大正自由教育の意義を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	第二次世界大戦と教育 第二次世界大戦が日本の教育に与えた影響を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第15回	戦後教育の発展 戦後教育とはどういうものを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	米田 薫				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

「教育心理学」は心理学の一領域で、教育に関連する諸事象を心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つ心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。本講義では、発達、パーソナリティと知能、学習と教育評価、動機づけを取り上げ、一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応や集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深め、心理学的知見に基づく教育観を醸成する。本講義は、グループで与えられた課題についてレポートし、そのプレゼンテーションを行う形式で進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育心理学に関する基本的知識	教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		与えられたテーマについて、グループで計画的に調査し、発表することができる。
2 . DP7. 完遂		自分の担当した役割に責任があることを自覚し、グループワークを最後まで遂行できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内のテスト	20%	： 授業内に実施する各単元の基礎的事項に関するテストにより評価する。
各単元のワークシート、課題レポート	45%	： 各単元で作成するワークシートと与えられた課題についてのレポートによって評価する。
プレゼンテーション	20%	： 与えられた課題に関するプレゼンテーションの内容とパフォーマンスにより評価する。
プレゼンテーションに用いる資料	15%	： プレゼンテーションに用いた資料の内容の正確さと適切さで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤司編著	・ 教育心理学	・ 一藝社	・ 2014年

参考文献等

桜井茂男編著『たのしく学べる最新教育心理学』図書文化社、2004
 古谷喜美代ら編著『児童生徒理解のための教育心理学』ナカニシヤ出版 2013
 藤澤文編著『教職のための心理学』ナカニシヤ出版 2013
 前原武子編著『生徒支援の教育心理学』北大路書房 2002

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。予習としてテキストの次時の範囲を読んでワークシートにまとめて授業に臨むこと、事後に自分で学修した事項をまとめること、確認テストに備えて復習しておくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2時間目

場所： 研究室

備考・注意事項： 質問は、Eメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「教心質問：〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

第1回	オリエンテーション 教育心理学とは何かを明らかにしよう		授業外学修課題にかかる目安の時間
	教育心理学の定義、領域について概説し、この講義の進め方等について説明します。	シラバスを熟読する。教育心理学の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	発達と教育（1）発達とは何か	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
	発達の定義、規定するもの、基本となる代表的な理論		

第3回	発達と教育（2）発達の諸相 発達段階と各段階の特徴と、親子関係から見た発達について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第4回	発達と教育（3）青年期の心理 中学生・高校生時代の心理について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第5回	学習の理論 学習の定義、基本となる代表的な学習理論の概観、記憶について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第6回	教授と学習 代表的な教授理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第7回	動機づけの理論 動機づけ、原因帰属、自信と無気力について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第8回	知能と学力 定義、代表的な理論、測定法、知能と学力の関係について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第9回	中間まとめ 前半の学びを振り返り、深めます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第10回	教育の評価 子どもを生かす教育評価を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第11回	授業の実践と研究 心理学を生かした授業実践について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第12回	学級集団 心理学を生かした学級集団づくりについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第13回	パーソナリティの問題と生徒理解 定義、代表的な理論、社会性や道徳性に関する理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第14回	障害のある子どもへの支援 支援を要する子どもへの支援のあり方を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第15回	総括 本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考えます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間

授業科目名	教育社会学				
担当教員名	鈴木勇・芝野淳一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義を中心に行うが、グループでの話し合いや調べてきたことの発表なども取り入れる。また、毎回の授業で振り返りのシャトルシートを課す。				

授業概要

本科目はまず、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的としている。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。具体的には、初めに教育社会学の基本的な考え方や主要テーマについて学んだ後、不平等、社会的包摂、国際化といった教育についての現代的課題を検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に付けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育の社会学に関する知識	学んだ知識を用いながら社会的な視点から教育について改めてとらえなおすことができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		相手の意見をよく聴いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート

： 授業内容を的確にまとめ理解できているか」という観点から評価する。
30%

テスト

： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。
70%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『中学校学習指導要領』／文部科学省
『中学校学習指導要領解説』／文部科学省
『教育社会学への招待』／若槻健・西田芳正編／大阪大学出版／2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 鈴木：火曜2限目 西館4F鈴木研究室
芝野：金曜5限目 西館4F芝野研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育社会学の基礎：歴史と理論（担当：鈴木勇） 教育社会学とはどのような特徴を持つ学問領域なのか。また、どのように発展してきたのか。これらのことから教育社会学を学ぶ意義について考えます。	4時間
第2回	教育社会学の基礎（2）：現状と課題（担当：芝野淳一） 教育社会学という学問領域について、現在の教育社会学研究のトレンドと課題を中心に学習し、教育社会学を学習するために必要な基礎知識の習得を目指します。 キーワードは、グローバル化、個人化、多様性、実践性。	4時間
第3回	近代の教育行政と学校制度（担当：鈴木勇） 近代に入ると国が学校を作り、国民は学校に行くことになった。国が学校制度を整備したのはなぜなのか。また、その結果、日本の教育はどのように変わったのか。こうしたことについて考えます。	4時間
第4回	教育と家族（担当：芝野淳一） 教育社会学において議論されてきた「教育」と「家族」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における家族と教育の問題について考察していきます。 キーワードは、社会階層、教育戦略、格差	4時間
第5回	学校と地域（担当：鈴木勇） 子どもの成長には、学校のみならず地域の影響も大きい。特に近年では学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが重要視されている。そのための取り組みや課題について考えます。	4時間

第6回	教員集団と学校（担当：芝野淳一） 教育社会学において議論されてきた「教員（集団）」と「学校」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における学校教育の諸課題について考察していきます。キーワードは、教師の資質・力量、教員集団、学校づくり。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校における教員集団の役割について理解を深める。	4時間
第7回	教育における選抜と排除（担当：鈴木勇） 様々な理由により教育から排除される子どもたちが増加している。そして、教育から排除されることで社会的に不利な状況に陥ることが多い。その現状と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第8回	教育と格差（担当：鈴木勇） 近年、世界的に社会の格差が広がっており日本も例外ではない。そしてその格差は教育における格差や不平等を生むこととなる。教育の格差や不平等の現状とそれらがいかんして再生産されるのかについて考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第9回	教育と進路（担当：芝野淳一） 教育社会学において議論されてきた「教育」と「進路」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における子ども・若者の進路選択やキャリア形成の問題について考察していきます。キーワードは、学校から職業への移行、進学格差、国境を超える進路・キャリア形成	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、生徒の進路と学校教育の関係性について理解を深める。	4時間
第10回	社会的包摂と教育（担当：鈴木勇） 支援が必要な子どもたちに等しく教育の機会を与えようとするインクルーシブ教育の考え方や取り組みが広がっている。主に日本のインクルーシブ教育の歴史と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第11回	教育とジェンダー（担当：芝野淳一） 学校教育におけるジェンダー問題について学び、男女格差やセクシャル・マイノリティといった事象について深く考えます。キーワードは、隠れたカリキュラム、バックラッシュ、セクシャル・マイノリティ。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校教育におけるジェンダーの問題について理解を深める。	4時間
第12回	グローバル化と教育（1）：外国人児童生徒編（担当：芝野淳一） 日本における外国人児童生徒の教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における学校教育のあり方を探ります。キーワードは、ニューカマー外国人、エスニシティ、教育支援。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、日本における外国人児童生徒の教育問題について理解を深める。	4時間
第13回	グローバル化と教育（2）：海外・帰国子女編（担当：芝野淳一） 日本から海外に移住する／海外から日本に帰国する子どもが直面する教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における在外教育施設や学校教育のあり方を探ります。キーワードは、移住の多様化、在外教育施設、トランスナショナルリズム。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、海外・帰国子女の教育問題について理解を深める。	4時間
第14回	市民社会と教育（担当：鈴木勇） グローバリゼーションと新自由主義化は今日の教育における主要なトレンドであるが、両者が方向を間違えると格差の拡大や民族主義を生み出す危険性がある。市民性教育がこれらに対抗しうるのかについて考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第15回	教育政策の国際比較（担当：鈴木勇） 世界の主要な国々の教育施策の動きと比較しながら日本の教育を検討する。そうすることで日本の教育の特徴と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	山本 はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義				

授業概要

本講義では、教育内容としての教材や、生徒の学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画として教育課程やカリキュラムを捉えて検討していく。具体的には、我が国の学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化についての理解を踏まえ、現行および次期学習指導要領の基本構造や特色について考察していく。また、特色ある学校づくりと教育課程開発について、国際理解教育やキャリア教育、道徳の教科化等を事例的に取り上げ、教育課程編成の現状と課題について考察を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育課程に関する基礎的な知識	教育課程の基本的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育課程編成に関する専門的な知識・技術	教育課程の基本的な考え方や知識を修得したうえで、それらを実際の教育課程を分析するために活用することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教育課程編成に際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、新たな教育課程編成に向けた方向性を示すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50%	： 教育課程に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。
教育課程の諸課題に関するレポート	50%	： 教育課程に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 中学校学習指導要領	・ 文部科学省	・ 2008年
	・ 高等学校学習指導要領	・ 文部科学省	・ 2009年

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房 2009年
そのほか、各テーマにあわせて適宜授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	後日連絡する
場所：	後日連絡する

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、教育課程の定義、現代的教育課程をめぐる課題 教育課程の定義を知り、現代的教育課程をめぐる課題について意識を持つ。	理想の時間割を考える。 4時間
第2回	教育課程（カリキュラム）論の範囲 カリキュラムの類型や変遷を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第3回	経験カリキュラムと学問カリキュラム（1）経験主義と系統主義、経験主義に焦点をあてて 経験主義と系統主義を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第4回	経験カリキュラムと学問カリキュラム（2）系統主義に焦点をあてて、現代化 経験主義と系統主義を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第5回	現代に求められる学力観とカリキュラム 現代に求められる学力を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第6回	教育課程の評価・カリキュラム評価（1）教育評価の変遷と3つの機能 教育評価の変遷を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第7回	教育課程の評価・カリキュラム評価（2）新しい評価法、パフォーマンス評価、ルーブリック 今求められている評価方法を知る。	資料を読み、まとめる。 4時間
第8回	総括と質疑応答 総括と質疑応答、基礎的事項の確認を行う。	これまでの学習内容を整理する。 4時間

授業科目名	美術科教育法 I				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

美術教育は、学校のみならず美術館などの文化施設や個人の絵画教室等幅広く実施されているものです。本科目では、このような様々な機会で開催されている美術教育のなかでも、学校教育で行われている美術科教育を取り上げ、「美術科教育の教科性」、「子どもの発達と造形表現の関係」、「美術教育史」、「指導要領の変遷」等について学びます。また、美術科教育について学ぶ際に広く教育全体のことにも意識を向ける必要があることから、教育全体と美術教育の関係性についても検討します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 美術教育に関する知識	目標： 日本の美術教育史、心身の発達と造形表現の関係等を学び、美術科教育についての基礎的知識を習得することができる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況、授業への参加度	30%	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
授業内発表やディスカッション	20%	： 各自が収集した教育に関する記事やニュースなどから、関心ある事項を取り上げ問題を提示すると同時に、他者の発表に関して積極的に発言し議論することができる。
個人ノート作成、資料収集	20%	： 授業内容を理解し、それに適した内容の資料を整理し個人ノートを完成させることができる。
最終レポート	30%	： 現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察しレポートを作成することができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献他授業中にも適宜紹介します。
『美術による人間形成』（V. ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳）黎明書房
『造形芸術の基礎』（ヨハネス・イッテン著/手塚又四郎訳）美術出版社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	美術科教育について 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 美術科教育の導入として、教育の定義を示すとともに、各学生がめざす教育観について検討する。 また、今後の授業で使用する個人ノートの作成について、文献や新聞等を活用した資料収集の方法等具体的な説明を行う。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。	3時間
第2回	美術科教育の教科性 「美術の教育」と「美術教育」の違いを理解するとともに、「美術科教育」の特性について学ぶ。	3時間
第3回	心身の発達と造形表現の発達段階 ① 幼児期 「発達とは」「発達段階とは」を把握し、人間の心身の発達と主に描画方法の発達を追い、各学ぶ年齢に応じた教育のあり方を探る。『描画期』から『命名的表現』の特徴を学ぶ。	4時間
第4回	心身の発達と造形表現の発達段階 ②児童期 I 児童期前半の発達と描画表現の特徴「前図式表現」「図式的表現」を学ぶ。	4時間

第5回	心身の発達と造形表現の発達段階 ③児童期Ⅱ 児童期後半の発達と描画表現の特徴「前写実的表現」「擬似写実的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ「児童期から青年期への変化について」他、教育関連の資料収集	4時間
第6回	心身の発達と造形表現の発達段階 ④青年期 「決定の時期である青年期の発達と描画表現の特徴」「写実的表現」「芸術的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ「青年期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第7回	日本の美術科教育の歴史 ①幕末から明治時代 日本における美術教育、美術科教育の歴史を幕末から平成まで順を追って概観する。また、日本の美術教育に大きな影響を与えた海外の美術教育も含めて学ぶ。 ①では、幕末から明治期にかけて「鉛筆画時代」「毛筆画時代」「教育的図画時代」について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ「幕末から明治にいたる日本の歴史的背景について」他、教育関連の資料収集	4時間
第8回	日本の美術科教育の歴史 ②大正時代から昭和初期時代 「自由画時代」「脱自由画・構成教育時代」の美術教育を学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ「バウハウスの教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第9回	日本の美術科教育の歴史 ③ 昭和10年代から20年代中期 『戦時下図画・工作時代』『占領下生活主義・実用主義美術教育時代』について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ「第二次世界大戦前後の時代的背景、占領下における教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第10回	日本の美術科教育の歴史 ④昭和20年代後期から40年代 「創造・認識・造形主義時代」「系統的造形主義美術教育時代」について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ、「昭和20年代から40年代の美術教育について」他、教育関連の資料収集	4時間
第11回	日本の美術科教育の歴史 ⑤昭和50年代から平成にかけて 「感性主義美術教育時代」「ゆとり教育」について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ、「ゆとり教育の影響について」他、教育関連の資料収集	4時間
第12回	学習指導要領の変遷 ①昭和20年代から40年代 小学校「図画工作」、中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第13回	学習指導要領の変遷 ②昭和50年代から平成20年代 小学校「図画工作」、中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第14回	これからの教育について考える これまでの授業ノートの内容や個人ノート、収集した教育関連資料を踏まえて各人が問題提議を行い、課題、問題点を考える。	授業内容を振り返り、現代における教育の課題、問題を踏まえて個人の考えをまとめる。	5時間
第15回	まとめ 美術教育について考える 前回の授業内容を踏まえ、現代が抱える教育上の諸問題に対して、美術科教育が担う役割は何か考える。	個人ノートのまとめとレポート作成	5時間

授業科目名	美術科教育法Ⅱ				
担当教員名	湯川雅紀				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

本科目では、美術教育に関する基本的事項を学ぶとともに、現代の美術教育がもつ諸問題を認識し、芸術教育に携わるための広い視野を獲得することを目的としています。そのために、近代における美術教育の歴史的展開を概観し、戦後から現在に至る美術科教育の変遷を理解し、現代の美術教育が抱える課題について考察するとともに、これからのあるべき美術教育の姿について考え、独自のアイデアを生かした授業づくりにつながる視点を養成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 美術教育の歴史についての知識 現代の美術教育が抱える問題について	目標： 美術教育の変遷を踏まえ、その成果と問題点を読み解くことができる。 美術教育の現状を理解し、課題について他人の意見も参考にしながら考察できる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見 2 . DP5. 計画・立案力		美術教育の課題について検討できる。 独自の授業づくりのためのアイデアを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート	35%	： 内容の妥当性と論理的構成力について、3段階で評価します。
プレゼンテーション	35%	： 講義内容と授業で扱うテキストや文献資料を理解し、独自の視点で分析できているかを、3段階で評価します。
授業づくりのためのアイデア	30%	： 独創的な授業づくりのアイデアが考えられるかどうか、3段階で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
福田隆眞・福本謹一・茂木一司編	美術科教育の基礎知識	建帛社	2010年

参考文献等

テキスト：適宜プリントを配布する。その他、適宜資料を配布する。
 参考文献：『美術教育の課題と展望』花篤実監修、永守基樹他編著（建帛社）、『中学校学習指導要領・美術科』文科省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 教育実習に向けて、学生の問題意識を形成するために出来るだけ多く対話の機会をつくりたい。
 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます。
 mayutohi37@yahoo.co.jp
 メールには必ず氏名と所属を明記してください。

授業計画

回数	授業内容	復習・予習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション—美術教育・美術教師の面白さは何だろう？ 美術教育の意義や役割を美術教師という仕事の面白さという観点から考える。受講生の今までの経過県や、現代社会や今日のアートシーンなどの広い視野から討議を通じて考える。	復習：美術教育の意義について自分の意見をまとめる。	4時間
第2回	美術教育の現代—その課題と状況 現代日本の美術教育の課題を考える。そのために「脱・工業」「脱・国民国家」という時代認識と、「ポスト・アート」という言葉に象徴的な今日のアートの状況を認識し、美術教育の課題を討議を交えて主体的に探る。	復習：美術教育の課題についてまとめる。	4時間
第3回	西洋と日本の出会いが生む美術教育—鉛筆画と毛筆 幕末から明治初期の教育制度形成期における美術と教育の姿は、グローバル社会のなかで進むべき道を模索する現代日本の課題と大きく重なる。「西洋画」がどのようなかたちで美術教育の制度に組み込まれたかを理解することは、近代日本の文化の本質を理解することである。	予習：テキスト当該箇所の精読と理解。復習：西洋画と日本の文化についてレポートを書く。	4時間
第4回	岡倉天心の射程—グローバリズムと茶の湯	予習：岡倉天心とその活動について調べる。	4時間

	岡倉天心が構想した「日本美術」と「美術教育」は、現代のグローバル化のなかで美術・教育を考えるために大きな示唆を与える。西洋と東洋との差異を超える普遍的な美術・教育のビジョンを考える。		
第5回	『新定画帖』と大正自由画運動 明治末期に『新定画帖』（教科書）は「教育的美術」という系統的な美術教育のビジョンを示す。しかしそれは大正自由画運動という近代的で大衆的な教育運動によって、大きな意味を持ち得なかった。その歴史的経緯から、「美術教育の近代」を探る。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動の成果と問題点についてまとめる。	4時間
第6回	大正自由画運動の展開とそれをめぐる論議 日本における最初の近代的な美術教育運動である大正自由画運動は大きな大衆的支持を得た。しかし多くの論議を呼び、賛否の論が出された。それらを通じて、現代の美術教育の基本的な理念と方法を検証する。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動が現代に与える示唆についてレポートを書く。	4時間
第7回	工作・工芸・デザイン教育の近代 明治以降、戦前まで工作はそのほとんどを「手工」という教科名で行われた。「手工」教育の歴史を追うことで、工業国家が求めた「手」の教育の姿を理解する。それは西欧における19世紀末の美術工芸運動やバウハウスなどでのデザイン運動での教育の姿と比較することで、より明瞭となる。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：デザイン教育の黎明期に起こった運動についてまとめる。	4時間
第8回	戦後美術教育の展開と昭和22-26年学習指導要領期の美術教育 戦後美術教育の展開を概観した上で、戦後直後に法的拘束性を持たない「試案」として出された学習指導要領の内容を理解する。戦後リベラリズムと生活単元学習の受容のなかでの美術教育は、現在の規制緩和路線とどのように以て、どのように異なるのかを理解する。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の意味について考える。	4時間
第9回	昭和33-44年学習指導要領と民間美術教育運動 米国における「教育の現代化」政策の影響下で「系統化」を進めた昭和33-44年学習指導要領。その意味波動時代に実質的に美術教育を推進した民間美術教育運動の3潮流のなかで考える必要がある。近代美術教育の制度と理念をめぐってその姿を探る。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第10回	昭和52年一平成元年学習指導要領とポスト近代社会 高度成長期の終焉と共に「ゆとり」教育へと振れはじめる学習指導要領。その背景としてのポスト近代社会とそれが要請する美術教育のビジョンを米国と日本とを比較しつつ考える。他方、1970年後半以降のアートの変容も視野に入れる。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第11回	平成10-22年学習指導要領と新しい学力・能力観 1990年代以降に顕在化する新自由主義的政策のなかで、美術教育はどのように対応すべきなのか。ポスト近代における教育と美術、そして文化の大きな変動を背景として「学校美術教育」の今後を考える。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第12回	現行学習指導要領の課題と展望 以下の諸点から現行の学習指導要領の問題点と課題について考える。 ①共通事項、②鑑賞教育、③小中連携	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現行学習指導要領の目的と内容についてプリントにまとめる。	4時間
第13回	明日の美術教育を構想する（1）—美術教育の学力論と現代アート論から 1990年代以降に現れた新しい学力観と能力観を批判的に理解し、美術教育の進むべき道を探る。同時に美術教育のカリキュラムモデルを示しながら、その具体的な検討を行う。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現代の美術教育の問題点についてまとめる。	4時間
第14回	明日の美術教育を構想する（2）—学生からの提言（構想） いままでの授業内容を踏まえ「明日の美術教育を切り開く授業プラン」を小グループで構想する。	予習：授業づくりのアイデアを考える。復習：授業で構想したプランを基に具体的なプランを考える。	4時間
第15回	明日の美術教育を構想する（2）—学生からの提言（発表） ＋まとめ いままでの授業内容を踏まえ「明日の美術教育を切り開く授業プラン」を発表する。	発表された授業プランを基に、さらに具体的な授業計画を構想する。	4時間

授業科目名	美術科教育法Ⅲ				
担当教員名	湯川雅紀				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義と研究発表が中心となります。学生各自が美術の授業で何を教えたいのかを熟考し、題材開発を行い、学習指導案を作成し、それを皆で検証しながら授業を進めていきます。また学習指導要領の読解では様々な専門				

授業概要

本授業では来るべき教育実習に向けての準備として、学校・高等学校において美術の授業を行うために必要な知識と技術を学びます。主に学習指導案の重要性について理解を深め、子どもたちが置かれた状況に即した題材開発と学習指導案の作成について詳細にシミュレーションを行います。さらに学習指導要領の読解を通じて、学校教育で求められている教師としての自覚を促します。また授業の最後には教員採用試験に対する傾向と対策を考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学習指導案の書き方	題材設定とその理由、指導目標、評価基準について、正しく書くことができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導要領の読解力	学習指導要領に書かれてある教科の目的および内容、指導計画等を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		授業の題材を考え、指導案を作成する力を要請する。
2 . DP6. 行動・実践		自分の考えをわかりやすく発表し、理解させる力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学習指導案の作成	40%	： 学習指導案を2案作成し、その各項目が教育実習の現場で実情に沿ったものであるかどうかを基準に評価します。
学習指導要領の理解	40%	： 学習指導要領の全文を熟読して理解できているかどうか、小テストによって評価します。
プレゼンテーション	20%	： 教育実習の準備として、わかりやすい説明ができるかどうかを短いスピーチによって評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 美術編	・ 日本文教出版	・ 2008年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領	・ 東山書房	・ 2008年

参考文献等

- 『高等学校学習指導要領』（文部科学省）東山書房 2009年
『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（文部科学省）教育出版 2009年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます。メールには必ず氏名と所属を明記してください。
湯川雅紀
メール：mayutohi37@yahoo.co.jp

授業計画

回数	内容	予習・復習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション —教育実習に向けての実践的準備を中心に— 授業形式と授業内容の紹介をします。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備。	4時間
第2回	教職カルテの記入 今までの履修状況の確認をします。教職課程の単位履修漏れを防ぐとともに、これから始まる各種の実習に臨む準備をします。	復習：教職カルテの記入。	4時間
第3回	題材開発演習①—題材開発とは— 美術科の授業における題材開発の重要性について学びます。	予習：授業の題材についてアイデアを考える。復習：題材開発の要点を踏まえて自分なりの題材を考える。	4時間
第4回	題材開発演習②—良い題材とは— 美術科の題材に求められるものとは何かを、具体的に例を挙げながら解説します。	復習：独自に考えた題材が学校での美術の授業に適しているか、再検証。	4時間

第5回	題材開発演習③―題材の検証― 実際に題材開発を行って、グループで話し合いながらその長所や問題点を明らかにします。	復習：話し合いを踏まえて、題材の再検証を行う。	4時間
第6回	学習指導案の作成①―概説― 学習指導案についての基礎知識および書き方の通例について学習します。	予習：学習指導案の一般的な書式について学ぶ。復習：授業で学んだことを踏まえて学習指導案の原稿を作成。	4時間
第7回	学習指導案の作成②―題材観― 作成した学習指導案の中で、主に「題材観」「題材設定の理由」「題材について」と呼ばれている項目について検証します。	復習：授業での検証を基に、指導案の各項目を修正する。	4時間
第8回	学習指導案の作成③―指導目標と評価基準― 指導目標の立て方と、それが達成されたかどうかを判断する評価基準の違いについて検証します。	復習：指導目標と評価基準の違いを理解し、当該箇所の修正を行う。	4時間
第9回	学習指導案の作成④―指導計画― 指導計画の立て方と、本時の計画（細案）について検証します。	復習：無理なく適切に題材を指導できるかどうか、授業で学んだことを踏まえて再検証を行う。	4時間
第10回	学習指導要領①―目的― 教科の目的について、学習指導要領に書かれてある理念と照らし合わせながら解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第11回	学習指導要領②―内容― 教科の内容について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第12回	学習指導要領③―指導計画― 教科の指導計画について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第13回	学習指導要領④―共通事項― 新しく学習指導要領の内容に導入された共通事項について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第14回	教職カルテのまとめ 教職カルテを再度チェックし、記入漏れや内容の不備などを修正します。	教職カルテの記入。	4時間
第15回	まとめ 本授業の内容を踏まえて、美術教育に求められている教師像を新たにイメージし、来るべき教育実習や採用試験に向けた準備を行います。	小スピーチの結果を基に、自分に足りない課題を再認識し、実習に備える。	4時間

授業科目名	美術科教育法Ⅳ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	指導案作成と模擬授業発表・その検証が中心となります。授業立案の課題収集と分析を通じて、自分自身の考えをまとめること、授業を的確に指導することができるように検証、解説をおこないます。				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科における各領域の学習指導内容を検討し、目標の設定、指導上の留意点、評価について考察・検証し、学習指導案を作成します。また、作成した指導案に基づき受講者全員が模擬授業を行い、その後の討議により多角的に検証を行い、4年生時の教育実習において授業が行える力を身に付けることを目標とします。さらに、授業体験を通して美術科授業で配慮すべきことや、指導のポイントを学び、教科指導において必要な指導力の習得をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	目標にかなった適切な授業の提案ができる。	討議を通して、授業案を作成し、適切な模擬授業の提案ができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		目標にかなった指導案を作成し、適切な授業の提案ができる。
2．DP6. 行動・実践		討議を通じた意見収集から、模擬授業の問題点の検討ができ改善することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業指導	30%	：自ら学ぼうとする意欲を評価する。目標にかなった指導ができたかを評価する。
模擬授業の提案、討議の様子	70%	：討議での意見収集から、模擬授業の問題点を検討し改善ができる。ディスカッション時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者を尊重し真摯に取り組む姿勢を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回数	授業の目的及び授業計画、内容紹介	授業評価について	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	美術科授業の目的と意義及び本科目の授業計画・内容について解説する。 授業評価の方法、評価基準について説明する。	授業計画と内容を確認し、授業の概要について確認する。	4時間
第2回	美術科授業の学びの変遷について説明し、現行・新学習指導要領において改訂の要点を検討する。	授業内容をまとめ、美術科授業の学びの変遷、現行・新学習指導要領改訂の要点の理解を深める。	4時間
第3回	指導計画に基づいた授業概要の立案 指導計画に基づいた授業概要について事例をもとに検討する。	指導計画に基づいた授業指導案を立案する。	4時間
第4回	模擬授業案作成と実施に向けての留意点について解説する。	自身の指導テーマを反映した模擬授業が実施できるように準備する。	4時間
第5回	模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第6回	模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間

第7回	討議 意見収集 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	模擬授業シミュレーションと討議内容の整理を行い、課題と成果を明確にする。	4時間
第8回	模擬授業シミュレーションと討議 ③ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第9回	模擬授業演習の中間評価 模擬授業演習の中間評価を行う。	模擬授業演習の内容を検討し、課題と成果についてまとめる。	4時間
第10回	模擬授業シミュレーションと討議 ④ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	各発表の記録を振り返りシートにまとめる。模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第11回	模擬授業シミュレーションと討議 ⑤ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討する。	模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第12回	授業の導入を考える 模擬授業演習において、授業導入に焦点を当てその要点について検討する。	授業導入における要点を整理しまとめる。	4時間
第13回	授業の展開を考える 模擬授業演習において、授業展開に焦点を当てその要点について検討する。	授業の展開の要点をまとめる	4時間
第14回	模擬授業シミュレーションのまとめ 授業演習、問題点の検討 振り返りシートをまとめる	授業展開における要点を整理しまとめる。	4時間
第15回	模擬授業シミュレーションのまとめ 模擬授業演習を通しての課題と成果を検討し、適切な授業ができるように振り返りシートをまとめる。	模擬授業シミュレーションの整理、記録を行い実際の授業に生きるように考察する。	4時間

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法 I				
担当教員名	出原真哉				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。そのために、教材の作成・収集の実例やその活用について、歴史分野の原始・古代史を例として指導案を再現することを通して、指導技術（教材の提示、発問、声の大きさ等）を学びます。自ら教材を作成準備し、その教材を活かした指導案を作成して模擬授業を行います。各自が考えた指導案を相互評価することで、授業実践能力の向上をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 指導案作成とこれにもとづく模擬授業の実践	目標： 教材を作成・収集し、意欲的に教材研究に取り組めること。指導案（指導細案）を作成し、これをもとに模擬授業ができること。
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		自ら社会科学習の魅力を語ることができ、意欲的に教材研究に取り組むことができるか。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各時間の小レポート 15回	30%	：内容を的確に踏まえていれば2点、不足や誤りがあればその度合いに応じて1点、0点とし、2点×15回の合計とする。
指導案の作成	40%	：単元目標にそったものになっているか、教材研究は的確かまた準備の熱意が伝わるものであるか。内容的に誤りはないかなどにより総合評価する。
模擬授業	30%	：声の大きさや教材などが適切か、指導案にそって行われているか、発言内容に誤りやあいまいな表現がないか、学習の深まりが期待できるものとなっているかなど、学生同士の相互評価も加味しつつ総合評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 学習指導要領 解説 社会編	・	・ 2017年
出原真哉	・ 資料で学ぶ歴史攻略ノート	・ 山川出版社	・ 2012年
	・ 新しい社会 歴史（中学校の教科書）	・ 東京書籍	・ 2018年

参考文献等

講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1～4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で連絡します

場所：

備考・注意事項：

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 「学習指導要領」概説 講義内容ははじめ、課題や評価について概説します。どういった授業をつくることをめざすべきなのか考察します。	4時間 テキスト「はしがき 本書の特長 本書の利用のしかた」を読んで、意見や質問を用意して下さい。また、教科書「歴史の流れをとらえよう」をみて、年間指導計画の中のどのあたりで何を取り上げるか、1つ選んで発表する準備をしておいて下さい。
第2回	指導案（指導細案）の作成方法 I：授業を再現する	4時間 教科書の第2章2節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（1 人類の出現～9 隋・唐・宋・元）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。

	歴史分野の原始・古代の中から1コマ、中学校における50分のごく一般的な授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。		
第3回	指導案（指導細案）の作成方法Ⅱ：授業再現を通して指導案の書き方を学ぶ 歴史分野の原始・古代の中からもう1コマ、中学校における少し特別な50分の授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。	教科書の第2章3節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（10 飛鳥の政治～16 摂関政治）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。	4時間
第4回	教材の収集・作成と活用 1 実物教材の収集と活用について 教材研究の究極の一例として、実物教材をとりあげます。実物に勝る説得力の大きいものはありません。どんな実物教材を準備できるか、またどう活用するかを具体的に解説します。	テキストの「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の各右頁にはどのような実物教材が紹介されていますか。それは、どのような学習効果をねらったものだと考えられますか。いくつかについてあなたなりに考えておいて下さい。	4時間
第5回	教材の収集・作成と活用 2 模造紙教材の作成と活用について 模造紙に書くことは、板書（黒板に書く）時間を節約するばかりではなく、考察（アクティブラーニング）を促す教材として活用できます。どんな模造紙教材を作れるか、またどう活用するかを具体的に解説します。	テキストの「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の各右頁の資料を模造紙に書くとする、どんな発問を用意できますか、考えておいて下さい。レポート用紙に、模造紙のミニチュア版（縮小版・本物は黒板いっぱいになります。教室中から見えるような大きさです）を作っておいてください。合わせてその作品を使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第6回	教材の収集・作成と活用 3 地図教材の活用について 地理分野と歴史分野は密接に関係します。ただ、歴史分野の地図には時間の流れが伴います。平面の地図をどのように活用したら時間の経過を学習できるでしょうか。地図単独の活用と他の教材と合わせて使う方法などを紹介します。	あなたならば、どのような地図を用意しますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので書いてみて下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第7回	教材の収集・作成と活用 4 視聴覚教材の作成と活用について 視覚や聴覚に訴えかける教材は授業を活性化するものですが、これに頼りすぎると冗長になり、かえって間延びしてしまいます。視聴覚教材という写真や動画だけではなく音の教材も考えられます。なさそうである原始・古代の音とはどんな教材が考えられるか。さまざまな視聴覚教材を紹介します。	あなたならば、どのような視聴覚教材を用意できますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第8回	教材の収集・作成と活用 5 ポスター・掲示物教材の活用について 世の中には画像や動画があふれています。その中で、じっくり見せられるポスターや掲示物は、その存在を主張しようとしているかのように、見る者の目を引こうとします。これを教材化できないか。そもそもどこにあるか、またどのような視点で探せばいいのか、その活用方法についても解説します。	あなたならば、どのようなポスター・掲示物教材を用意できますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第9回	教材の収集・作成と活用 6 他教科との連携 文学作品の教材化について 国語科とのコラボレーション教材でもある文学作品を取り上げます。これを社会科の授業にしなければならない。興味関心を引くものをどう使うか。2冊の図書室にもある本から教材化を試みます。	教科書の奈良時代と平安時代にあたる第2章3節（ただし奈良時代からあと）と第3章1節（ただし平安時代の末まで）を読み、あわせてテキストのその範囲の所（14 平城京と平安京～20 平氏政権）の空欄補充や右頁の作業（20 平氏政権まで完成しておくこと）をしておいて下さい。そして文学作品として何をとりあげるか。もちろんその時代をテーマにしていれば近現代のものでもよい。あなたならば何をとり上げるか、考えておいて下さい。	4時間
第10回	指導案（指導細案）の作成Ⅰ：指導案を協議する 平安時代を範囲（テキスト「16 摂関政治」「17 武士の台頭」「18 院政と荘園公領制」のうちから1つを選ぶ）としてどこか1つのテーマをとりあげ、指導案を作成します。その単元で教えるべきことは何か、学習指導要領や教科書、テキストから単元目標をふまえて、教材として何を留意するか考えます。同じテーマを選んだ人と組んで、意見交換し、まず指導案を作成します。	あらかじめ、その範囲に関係するところ（教科書、指導要領、テキスト）を読んで下調べをしておいて下さい。どういう教材を使うか、その目的は何かを考えておいて下さい。	4時間
第11回	指導案（指導細案）の作成Ⅱ：指導過程を考え、指導細案を考える 選んだテーマの指導案の細案を作成します。そして、50分授業を「導入」「展開1」「展開2」「展開3」「まとめ」と分けるとします。各5分～10分で考えるとすると、自分が担当する部分を選び、使用する教材と合わせてどう使うかを考えて、時間配分や教材の提示の仕方・活用方法を検証しつつ、指導細案を作成させます。	指導案をもとに指導細案を作ります。あらかじめ指導案は完成して提出して下さい。	4時間
第12回	模擬授業と相互評価Ⅰ：グループAの模擬授業から学ぶ 模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本として声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切であったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評価します。	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間でする者は前の授業者の反省点を活かせるはずなので、よりの確かな準備ができるはず。また、先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間
第13回	模擬授業と相互評価Ⅱ：グループBの模擬授業から学ぶ 模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本として声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切であったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評価します。	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間でする者は前の授業者の反省点を活かせるはずなので、よりの確かな準備ができるはず。また、先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間

第14回	模擬授業と相互評価Ⅲ：グループCの模擬授業から学ぶ	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。ま た、先に模擬授業をした者は、自分のこと を踏まえて深く評価できるはず。心し て取り組んでおくこと。</p>	4時間
	<p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本とし て声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切で あったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評 価します。</p>	<p>自分の担当した授業と、自分以外が担当し た授業について改善点を提案してもらいま す。準備しておいて下さい。</p>	4時間
第15回	模擬授業の修正案	<p>模擬授業の修正を試みます。私ならばこうするという意見を積極 的に述べて下さい。</p>	

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ				
担当教員名	出原真哉				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

社会科・地理歴史科教育法Ⅰを受けて、社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。そのために、教材の作成・収集の実例やその活用について、歴史分野の近世史を例として指導案を再現することを通して、指導技術（教材の提示、発問、声の大きさ等）を学びます。自ら教材を作成準備し、その教材を活かした指導案を作成して模擬授業を行います。各自が考えた指導案を相互評価することで、授業実践能力の向上をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	具体的内容： 模擬授業の実践と、常に指導技術の向上をめざす教育者であるか	目標： 教材を作成・収集し、意欲的に教材研究に取り組めること。指導案（指導細案）を作成し、これをもとに模擬授業ができること。
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		自ら社会科学習の魅力を語りことができ、意欲的に教材研究に取り組むことができるか。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各時間の小レポート15回	30%	：内容を的確に踏まえていれば2点、不足や誤りがあればその度合いに応じて1点、0点とし、2点×15回の合計とする。
指導案の作成	40%	：単元目標にそったものになっているか、教材研究は的確かまた準備の熱意が伝わるものであるか。内容的に誤りはないかなどにより総合評価する。
模擬授業	30%	：声や教材の大きさなどが適切か、指導案にそって行われているか、発言内容に誤りやあいまいな表現がないか、学習の深まりが期待できるものとなっているかなど、学生同士の相互評価も加味しつつ総合評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 学習指導要領 解説 社会編	・	・ 2017年
出原真哉	・ 資料で学ぶ歴史攻略ノート	・ 山川出版社	・ 2012年
	・ 新しい社会 歴史（中学校の教科書）	・ 東京書籍	・ 2018年

参考文献等

講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1～4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で連絡します。

場所：

備考・注意事項：

授業計画

第1回 **ガイダンス 「学習指導要領」概説**

講義内容ははじめ、課題や評価について概説します。どういう授業をつくることをめざすべきなのか考察します。

テキスト「はしがき 本書の特長 本書の利用のしかた」を読んで、意見や質問を用意して下さい。また、教科書「歴史の流れをとらえよう」をみて、年間指導計画の中のどのあたりで何を上げるか、1つ選んで発表する準備をしておいて下さい。ただし前期で「社会科・地理歴史科指導法Ⅰ」を受講した者は、同じ項目を選ばないで、別のものを選択すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<p>指導案（指導細案）の作成方法Ⅰ：授業を再現する</p> <p>歴史分野の近世・近代史の中から1コマ、中学校における50分のごく一般的な授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。</p>	教科書の戦国時代から安土桃山時代にあたる部分、第4章1節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（31 戦国地図のぬりかえ～38 桃山文化）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。	4時間
第3回	<p>指導案（指導細案）の作成方法Ⅱ：授業再現を通して指導案の書き方を学ぶ</p> <p>歴史分野の近世史の中からもう1コマ、中学校における少し特別な50分の授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。</p>	教科書の第4章2節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（39 江戸幕府の内政Ⅰ～43 江戸幕府の外交Ⅱ）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。	4時間
第4回	<p>教材の収集・作成と活用 1 実物教材の収集と活用について</p> <p>教材研究の究極の一例として、実物教材をとりあげます。実物に勝る説得力の大きいものはありません。どんな実物教材を準備できるか、またどう活用するかを具体的に解説します。</p>	テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の各頁にはどのような実物教材が紹介されていますか。それは、どのような学習効果をねらったものだと考えられますか。いくつかについてあなたなりに考えておいて下さい。	4時間
第5回	<p>教材の収集・作成と活用 2 模造紙教材の作成と活用について</p> <p>模造紙に書くことは、板書（黒板に書く）時間を節約するばかりではなく、考察（アクティブラーニング）を促す教材として活用できます。どんな模造紙教材を作れるか、またどう活用するかを具体的に解説します。</p>	テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の各頁の資料を模造紙に書くか、どんな発問を用意できますか、考えておいて下さい。レポート用紙に、模造紙のミニチュア版（縮小版・本物は黒板いっぱいになります。教室中から見えるような大きさです）を作っておいてください。合わせてその作品を使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第6回	<p>教材の収集・作成と活用 3 地図教材の活用について</p> <p>地理分野と歴史分野は密接に関係します。ただ、歴史分野の地図には時間の流れが伴います。平面の地図をどのように活用したら時間の経過を学習できるでしょうか。地図単独の活用と他の教材と合わせて使う方法などを紹介します。</p>	あなたならば、どのような地図を用意しますか。テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の範囲で考え、手書きでいいので書いてみて下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第7回	<p>教材の収集・作成と活用 4 視聴覚教材の作成と活用について</p> <p>視覚や聴覚に訴えかける教材は授業を活性化するものですが、これに頼りすぎると冗長になり、かえって間延びしてしまいます。視聴覚教材という写真や動画だけではなく音の教材も考えられます。近世・近代の音とはどんな教材が考えられるか。さまざまな視聴覚教材を紹介します。</p>	あなたならば、どのような視聴覚教材を用意できますか。テキスト「31 戦国地図のぬりかえ」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。テキスト「44 元祿の政治と正徳の治」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」までの空欄補充と考察や作業をしておいて下さい。	4時間
第8回	<p>教材の収集・作成と活用 5 ポスター・掲示物教材の活用について</p> <p>世の中には画像や動画があふれています。その中で、じっくり見せられるポスターや掲示物は、その存在を主張しようとしているかのように、見る者の目を引こうとします。これを教材化できないか。そもそもどこにあるか、またどのような視点で探せばよいのか、その活用方法についても解説します。</p>	あなたならば、どのようなポスター・掲示物教材を用意できますか。テキスト「31 戦国地図のぬりかえ」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
第9回	<p>教材の収集・作成と活用 6 他教科との連携 文学作品の教材化について</p> <p>国語科とのコラボレーション教材でもある文学作品を取り上げます。これを社会科の授業にしなければならない。興味関心を引くものをどう使うか。図書室にもある本から教材化を試みます。</p>	教科書の江戸時代にあたる第4章3節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（45 商品生産の発達～57 化政文化）の空欄補充や作業をしておいて下さい。そして文学作品として何をとりあげるか。もちろんその時代をテーマにしていれば近現代のものでもよい。あなたならば何をとり上げるか、考えておいて下さい。	4時間
第10回	<p>指導案（指導細案）の作成Ⅰ：指導案を協議する</p> <p>江戸時代の幕政改革を範囲（テキスト「50 享保の改革」「51前半 田沼の改革」「51後半 寛政の改革」のうちから1つを選ぶ）としてどこか1つのテーマをとりあげ、指導案を作成します。その単元で教えるべきことは何か、学習指導要領や教科書、テキストから単元目標をふまえて、教材として何をを用意するか考えます。同じテーマを選んだ人と組んで、意見交換し、まず指導案を完成します。</p>	あらかじめ、その範囲に関係するところ（教科書、指導要領、テキスト）を読んで下調べをしておいて下さい。どういった教材を使うか、その目的は何かを考えておいて下さい。	4時間
第11回	<p>指導案（指導細案）の作成Ⅱ：指導過程を考え、指導細案を考える</p> <p>選んだテーマの指導案の細案を作成します。そして、50分授業を「導入」「展開1」「展開2」「展開3」「まとめ」と分けるとします。各5分～10分で考えるとすると、自分が担当する部分を選び、使用する教材と合わせてどう使うかを考えて、時間配分や教材の提示の仕方・活用方法を検証しつつ、指導細案を完成させます。</p>	指導案をもとに指導細案を作ります。あらかじめ指導案は完成して提出して下さい。	4時間
第12回	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ：グループAの模擬授業から学ぶ</p> <p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本として声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切であったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評価します。</p>	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間でする者は前の授業者の反省点を活かせるはずなので、よりの確かな準備ができるはず。また、先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間

第13回	模擬授業と相互評価Ⅱ：グループBの模擬授業から学ぶ	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。ま た、先に模擬授業をした者は、自分のこと を踏まえて深く評価できるはず。心し て取り組んでおくこと。</p>	4時間
第14回	模擬授業と相互評価Ⅲ：グループCの模擬授業から学ぶ	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。ま た、先に模擬授業をした者は、自分のこと を踏まえて深く評価できるはず。心し て取り組んでおくこと。</p>	4時間
第15回	模擬授業の修正案	<p>自分の担当した授業と、自分以外が担当し た授業について改善点を提案してもらいま す。準備しておいて下さい。</p>	4時間
<p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本とし て声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切で あったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評 価します。</p>	<p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本とし て声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切で あったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評 価します。</p>	<p>模擬授業の修正を試みます。私ならばこうするという意見を積極 的に述べて下さい。</p>	

授業科目名	社会科・公民科教育法 I				
担当教員名	丹松 美代志				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義を中心にしながら、毎回、小グループでの討論や発表を行います。学習指導案の作成に向けて、手順を追って説明し、宿題を出します。そして、指導案を基に、各自、模擬授業をします。また、毎回、小レ				

授業概要

社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。「協同的な学び」の理論に基づく授業実践の紹介や授業分析を交えつつ、社会科・公民科の授業実践能力の向上を目指します。2～4人でグループを編成し、中学教科書(公民的分野)の中単元の単元目標・指導計画・評価規準等を作成します。その後、各自が担当する小単元の指導細案を作成して模擬授業を実施し、相互評価します。公民的分野の授業力の獲得が狙いです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	伝える力	他人の意見や模擬授業について、自分の意見を伝えたり、的確に批評することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		学び合う力：「協同的な学び」の理論について正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準	
毎回の小レポート	20%	・各回1～2点で評価し、合計20点満点とする。 ・授業内容を踏まえた論述ができているかを見る。
小グループの課題作成や発表	20%	・中単元の目標、単元の指導計画、単元の評価規準等を20点満点で評価する。 ・グループで協力しているか、授業内容を反映しているかどうかで判断する。
指導案の作成	30%	・「協同的な学び」の理念を理解し、必要項目をあげているか、細案になっているかで判断し、30点満点で評価する。
模擬授業と相互評価	30%	・指導案を生かしているか、「協同的な学び」を意識できているか、協同的学びの視点で評価できているかで判断し、30点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説社会編	・ 日本文教出版	・ 2017年
佐藤学	・ 学校を改革する	・ 岩波書店	・ 2012年

参考文献等

- ・中学校における対話と協同/佐藤雅彰/ぎょうせい
- ・現代公民科教授の理論/木下百合子/教育出版センター
- ・新社会科授業づくりハンドブック 中学校編/全国社会科教育学会/明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：Eメールでの質問を受けます。その時は、必ず、大学名・学部名・学籍番号・名前を書いてください。(Eメールアドレス：mtosa29h@iris.eonet.ne.jp)

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>ガイダンス：授業のねらいと進め方、授業評価について説明</p> <p>めざす授業(協同的な学びの公民的分野の授業)の実際を紹介します。</p>	4時間
第2回	<p>社会とはどんな教科かを説明</p> <p>テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、指導案の要件についてモデルを示しながら解説します。グループで担当する教科書の中単元を決めます。テキスト『学校を改革する』を使って協同的学びの全体像について説明します。</p>	4時間

第3回	学習指導案の要件について説明 テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、指導案の要件についてモデルを示しながら解説します。テキスト『学校を改革する』を使って「21世紀の社会と学校」について説明します。	テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説<社会科の目標及び内容(公民的分野)>を読んでまとめてください。	4時間
第4回	公民的分野の課題について説明 テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、公民的分野の課題について解説します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の作成の準備をします。テキスト『学校を改革する』を使って「学びの共同体のビジョンと哲」について説明します。	テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説<指導計画の作成と内容>を読んでまとめてください。	4時間
第5回	協同的な学びの授業づくりについて説明(その1) テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、協同的な学びの授業づくりについて解説します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の作成をします。テキスト『学校を改革する』を使って「学びの共同体の活動システム」について説明します。	中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等を完成してください。	4時間
第6回	協同的な学びの授業づくりについて説明(その2) 共有の課題と発展の課題の2段階の展開について、具体例を示しながら解説します。各自が担当する小単元を決めます。テキスト『学校を改革する』を使って「協同的学びによる授業改革」について説明します。	担当することになった小単元の教材研究を始めてください。	4時間
第7回	公民的分野の授業のビデオカンファレンス 公民的分野の授業ビデオを通して見て、分析します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の手直しをします。そ教師間の同僚性の構築」について説明します。	グループの課題の手直しを完成してください。	4時間
第8回	指導案の展開例の書き方について説明 指導案のモデルを示し、指導案の作り方を解説します。特に、教科書の有効活用について解説します。テキスト『学校を改革する』を使って「保護者との連帯、教育委員会との連携」について説明します。	個人の展開例の構想を練ってください。	4時間
第9回	板書計画とワークシートについて説明 板書のねらいとワークシートの位置づけについて解説します。各自の展開例の課題設定を検討します。テキスト『学校を改革する』を使って「国内外のネットワーク」について説明します。	個人の展開例の1次案を完成してください。	4時間
第10回	NIEと公民科教育について説明 NIEの授業への活用について解説します。	板書計画とワークシートを完成してください。	4時間
第11回	丹松の模範授業「選挙と選挙をめぐる問題点」 小グループでAKB48の総選挙と国政選挙を比較しながら、投票率アップについて検討します。どの資料を選択するのか、追求します。	個人の展開例1次案の手直しをしてください。	4時間
第12回	18歳選挙権をめぐる課題について説明 主権者教育の観点から、昨年の国政選挙から導入された18歳選挙権の社会科教育上の課題を探ります。板書計画とワークシートの手直しをします。	次回からの模擬授業の準備をしてください。	4時間
第13回	模擬授業(その1) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	板書計画とワークシートの手直しを完成させてください。	4時間
第14回	模擬授業(その2) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	個人の学習指導案を完成させてください。	4時間
第15回	模擬授業(その3) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。全15回の振り返りをします。	模擬授業を振り返って、自らの指導案を見なおしてください。	4時間

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ				
担当教員名	丹松 美代志				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義を中心にしながら、毎回、小グループでの討論や発表を行います。各自で作成した学習指導案を基に、模擬授業をします。また、毎回、小レポート(400字程度)に取り組みます。				

授業概要

社会科・公民科教育法Ⅰを受けて、社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。「協同的な学び」の理論に基づく授業実践の紹介や授業分析を交えつつ、社会科・公民科の授業実践能力の向上を目指します。2～4人でグループを編成し、高校の公民科教科書の中単元の単元目標・指導計画・評価規準等を作成します。その後、各自が担当する小単元の指導細案を作成して模擬授業を実施し、相互評価します。公民科の授業力の獲得が狙いです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

伝える力:他人の意見や模擬授業について、自分の意見を伝えたり、的確に批評することができる。

目標：

- 学習指導案の必要項目を理解し、具体的に指導案を作成できる。
- 指導案を基に、模擬授業ができる
- 教育実習に向けての力量を獲得できる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

傾聴力:「協同的な学び」の理論について正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小レポート	20%	・授業内容を踏まえた自分なりの論述ができているかどうかを見る。
小グループの課題作成や発表	20%	・グループとしての作業や発表を20点満点で評価する。 ・グループで協力しているか、授業内容を反映しているかどうかで判断する。
指導案の作成	30%	・「協同的な学び」の理念を理解し、必要項目をあげているか、細案になっているかで判断し、30点満点で評価する。
模擬授業と相互評価	30%	・指導案を生かしているか、「協同的な学び」を意識できているか、協同的学びの視点で評価しているかで判断し、30点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説 公民編	教育出版	2017年
佐藤学ほか	活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く! 高校の授業	明治図書	2015年

参考文献等

- 社会科教育実践ハンドブック/全国社会科教育学会/明治図書
- 優れた社会科授業の基盤研究Ⅱ 中学校・高等学校の優れた社会科授業の条件/全国社会科教育学会/明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：Eメールでの質問を受けます。その時は、必ず、大学名・学部名・学籍番号・名前を書いてください。(Eメールアドレス：mtanmatsu@iris.eonet.ne.jp)

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：授業のねらいと進め方、授業評価について説明 解説公民編を使って、社会・公民科とはどんな教科かを解説します。	4時間
第2回	小中高をつなぐ社会科・公民科について説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く! 高校の授業』コラムP.154～167を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間

	解説編公民編を使って、社会の在り方を考察する基盤としての「幸福、正義、公正」を解説し、中学の「効率・公正、対立・合意」という社会の見方・考え方と対比します。グループを編成し、現代社会の教科書を使った模擬授業の担当する章を決めます。		
第3回	「協同的な学びに」について説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.154～167等を使って、協同的な学びについて解説します。指導案のモデルを示しながら、指導案の作り方を解説します。	テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.168～171を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間
第4回	「協同的な学び」の授業づくりについて説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.168～171等を使って、授業づくりの課題について解説します。各自が模擬授業する小単元を決めます。	テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』第3章3P.91～97を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間
第5回	授業づくりの実際について説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』第3章3P.91～97等を使って、教科書に立ち返りながら授業づくりの実際について解説します。	解説編公民の現代社会のところを読んで整理してください。	4時間
第6回	現代社会の目標と内容について説明 解説編公民を使って、現代社会の目標と内容について解説します。新教科「公共」にも触れます。	解説編公民の倫理のところを読んで整理してください。	4時間
第7回	倫理の目標と内容について説明 解説編公民を使って、倫理の目標と内容について解説します。	解説編公民の政治・経済のところを読んで整理してください。	4時間
第8回	政治・経済の目標と内容について説明 解説編公民を使って、政治・経済の目標と内容について解説します。	TPPについて政府の資料に目を通しておいってください。模擬授業の中単元を決めてください。	4時間
第9回	校種、教科を横断する課題について説明(その1) 小中高で扱うTPPについて解説します。実践例のDVDを視聴します。	裁判員裁判について、制度の概要を確認しておいてください。模擬授業の指導案、板書計画、ワークシートを作成してください。	4時間
第10回	校種、教科を横断する課題について説明(その2) 小中高で扱う裁判員裁判について解説します。指導案の中間チェックをします。	ESDについて、中学の教科書で振り返っておいてください。指導案、板書計画、ワークシートを完成してください。	4時間
第11回	校種、教科を横断する課題について説明(その3) ESDについて解説します。実践例のDVDを視聴します。	模擬授業の準備をしてください。	4時間
第12回	模擬授業(その1) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第13回	模擬授業(その2) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第14回	模擬授業(その3) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第15回	アクティブ・ラーニングのかだいについて説明 次の学習指導要領の核となるアクティブ・ラーニングの課題について解説します。	テキスト『活動的で協同的な学びへ 「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』の「はじめに」を読んで吟味してください。	4時間

授業科目名	商業科教育法Ⅰ				
担当教員名	稲村 昌南				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	「講義」中心であるが、模擬授業実施のため必要に応じて「演習」・「実習」形態も取り入れ、授業実践力・指導力の育成を重視したいと考えている。基本的に少人数授業であるので授業中の質疑応答など、双方				

授業概要

基本テキスト資料『教職必修 最新商業科教育法（新訂版）』にそって、商業科教育法Ⅰでは教科「商業」に関して主に（１）商業教育の必要性・意義、（２）わが国商業教育と学習指導要領の歩み、及び（３）各科目の学習内容、について概観した後、（４）基礎的科目「ビジネス基礎」について年間指導計画と学習指導案（授業計画案）の作成法を学び、学習指導案に即した模擬授業準備等を通じて、実際に模擬授業と授業参観を行ない、授業実践力・指導力の育成・獲得を追求する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 教科「商業」に関する専門的基礎知識	目標： 教科「商業」についての理解を基に、その指導・説明ができる。
汎用的な力 1 . DP6. 行動・実践		学習指導案を作成するとともに、授業参観の下で模擬授業を実施し、やり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート（2回）	20%	： 課題を的確に理解し、論理的な記述になっているかを基準に評価します。
学習指導案作成と模擬授業	60%	： 十分な教材研究の上に学習指導案が作成されているか、また内容を的確に伝える模擬授業になっているかを評価の基準とします。
学期末レポート	20%	： 教育課程・指導法問題に触れた見解になっているかどうかを評価の基準とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『教職必修 最新商業科教育法（新訂版）』（日本商業教育学会編著、実教出版、2011年）。
『高等学校学習指導要領解説 商業編』（文部科学省、平成22年）。
（いずれも図書館に入っています。）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3時間目
場所： 西館個人研究室45
備考・注意事項： メールでのアポイントも可（inamura@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

回数	授業内容	配布の参考資料	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：商業科教育法の授業目的とは 授業ガイダンスとして、「充実した商業教育を指導・展開できるようにする」ための「商業科教育法での学習の基本」について考える。	配布の参考資料の復習	4時間
第2回	商業教育の必要性と意義 高等学校における商業教育の必要性、特に商業教育での「商業」「経営」「ビジネス」学習の重要性・意義について考える。	第1回課題レポートの作成	4時間
第3回	わが国の商業教育の歩み 江戸期～今日に至るわが国商業教育の歴史を概観し、特に戦後の高等学校における商業科・学習指導要領の変化について考える。	配布のテキスト資料pp15-34の予習	4時間
第4回	学習指導要領（平成21年3月告示）とその理解 教科「商業」改訂の経緯とその具体的事項を確認し、特に新学習指導要領での「教科の目標」・「教科の組織」に焦点を合わせてその基本的内容の理解を深める。	配布のテキスト資料pp35-47の予習	4時間
第5回	各科目の学習内容（１）「ビジネス基礎」 基礎的科目「ビジネス基礎」の学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	配布のテキスト資料pp48-52の予習	4時間
第6回	同上（２）マーケティング分野 マーケティング分野の科目「マーケティング」「商品開発」「広告と販売促進」の各学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	配布のテキスト資料pp53-64の予習	4時間
第7回	同上（３）ビジネス経済分野 ビジネス経済分野の科目「ビジネス経済」「ビジネス経済応用」「経済活動と法」の各学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	配布のテキスト資料pp65-76の予習	4時間

第8回	同上（４）会計分野 会計分野の科目「簿記」「財務会計Ⅰ」「財務会計Ⅱ」「原価計算」「管理会計」の各学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	配布のテキスト資料pp77-93の予習	4時間
第9回	同上（５）ビジネス情報分野 ビジネス情報分野の科目「情報処理」「ビジネス情報」「電子商取引」「プログラミング」「ビジネス情報管理」の各学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	配布のテキスト資料pp93-113の予習	4時間
第10回	同上（６）総合的科目 総合的科目を構成する科目「課題研究」「総合実践」「ビジネス実務」の各学習内容とそのねらいを、目標、内容とその取扱い、指導方法、評価の観点を中心に確認する。	第2回課題レポートの作成	4時間
第11回	指導計画と授業展開（１）学習指導案作成法 基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導案作成と模擬授業準備のため、先ず年間指導計画と学習指導案（授業計画案）の作成法について、その基本を確認する。	配布のテキスト資料pp125-147の予習	4時間
第12回	同上（２）学習指導案の作成 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業準備のため、「ビジネス基礎」の高等学校商業科用教科書『ビジネス基礎』（実業出版、平成27年）を参考に、先ず模擬授業で取上げる指導単元の内容等について教材研究と学習指導案作りを進める。	模擬授業のための教材研究と学習指導案作成の準備	4時間
第13回	同上（３）学習指導案演習 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業のための学習指導案に基づき、その内容と指導方法について演習・実習形式の授業を行なう。	模擬授業授業のための資料作成	4時間
第14回	同上（４）模擬授業の実施 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業を関係教員の授業参観の下で実際に行ない、質疑応答等を含め、授業実践力・指導力の改善・向上のための場とする。	模擬授業のふりかえり	4時間
第15回	まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明 模擬授業を含め15回の講義全体のふりかえりと、必要に応じた補足・補充説明を行なう。	まとめの学期末レポートの作成	4時間

授業科目名	商業科教育法Ⅱ				
担当教員名	岡田 好史				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	「講義」中心であるが、模擬授業実施のため必要に応じて「演習」・「実習」形態も取り入れ、授業実践力・指導力の育成を重視したいと考えている。基本的に少人数授業であるので授業中の質疑応答など、双方				

授業概要

基本テキスト資料『教職必修 最新商業科教育法（新訂版）』にそって、商業科教育法Ⅱでは教科「商業」に関して主に（１）商業教育と人間形成、（２）商業科教師への期待と商業教育の課題、について概観した後、（３）基礎的科目「ビジネス基礎」について年間指導計画と学習指導案（授業計画案）の作成法をより実践的・詳細に学び、学習指導案に即した模擬授業準備等を通じて、実際に模擬授業と授業参観を行ない、授業実践力・指導力の育成・獲得をより確かなものにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	商業科の科目を高校生に教育する力を育成する	商業科の授業を高校生に教える
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		授業等での高校生とのコミュニケーションを十分にとることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・その他(以下に概要を記述)
模擬授業を行う

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート	20%	： 提出されたレポートを授業の内容理解度で評価する
学習指導案の作成と模擬授業	60%	： 学習指導案の内容と完成度、模擬授業の内容で評価する
学期末レポート	20%	： 提出されたレポートを授業全体の内容把握度で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『教職必修 最新商業科教育法（新訂版）』（日本商業教育学会編著、実教出版、2011年）。
『高等学校学習指導要領解説 商業編』（文部科学省、平成22年）。
(いずれも図書館に入っています。)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜 2 限
場所：	図書館棟 3 階研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスと商業科教育法の考え方 授業ガイダンスと、「充実した商業教育を指導・展開できるようになる」ための「商業科教育法Ⅱでの学習の基本」について考える。	商業科教育とはどのようなものかを考える 4時間
第2回	商業教育と人間形成（１）育成したい生徒像 商業教育を通じて育成したい生徒像について、特に倫理観育成の重要性やその指導方法について考える。	配付の基本テキスト資料p. 148-163 4時間
第3回	商業教育と人間形成（２）特別活動、生徒指導、進路指導等 商業教育と人間形成にかかわる「商業教育と特別活動」「商業教育と生徒指導」及び「商業教育と進路指導・キャリア教育」についてその基本を考える。	配付の基本テキスト資料p. 148-163 4時間
第4回	商業科教師への期待（１）優れた教師像 優れた教師の要素としての「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」の3つについて、先ずその基本を考える。	配付の基本テキスト資料p. 164-173 4時間
第5回	商業科教師への期待（２）教育の専門家としての力量育成 優れた教師の要素としての「教育の専門家としての確かな力量」について、特にその「確かな力量の育成方法」に焦点を合わせ、内容の理解を深める。	配付の基本テキスト資料p. 164-173 4時間
第6回	商業科教師への期待（３）商業科教師に期待されること 商業科教師に期待される資質・能力としての「教科指導など」「学校運営」「保護者・地域との連携」「研修」の4つについて、先ずその基本を考える。	配付の基本テキスト資料p. 164-173 4時間
第7回	商業科教師への期待（４）教育課程のマネジメント力育成 商業科教師に期待される資質・能力としての「教科指導など」における、特に「教育課程のマネジメント力の育成」についてその内容の理解を深める。	配付の基本テキスト資料p. 164-173 4時間
第8回	商業科教師への期待（５）研修の方法・あり方	課題レポートの作成 4時間

	商業科教師に期待される資質・能力としての「研修」における、特に「研修方法・研修のあり方」について考え、理解を深める。		
第9回	商業教育の課題と展望 商業教育の課題と展望にかかわる3つの問題側面、すなわち「魅力ある商業教育を目指して」、「確かな学力の育成」、「商業教育の理解と啓発」のそれぞれについて、その理解を深める。	配付の基本テキスト資料p. 174-181	4時間
第10回	指導計画と授業展開（1）学習指導案作成法 基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導案作成と模擬授業準備に入るため、先ず年間指導計画と学習指導案（授業計画案）の作成法について、その基本を確認・習得する。	配付の基本テキスト資料p. 125-147	4時間
第11回	指導計画と授業展開（2）教材研究 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業準備のため、「ビジネス基礎」の高等学校商業科用教科書『ビジネス基礎』（実業出版、平成27年）を参考に、先ず模擬授業で取上げる指導単元の内容について教材研究を進める。	配付の基本テキスト資料p. 164-173	4時間
第12回	指導計画と授業展開（3）学習指導案作成演習 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業準備のための教材研究に基づき、学習指導案作成を演習形式で行なう。	配付の基本テキスト資料p. 164-173	4時間
第13回	指導計画と授業展開（4）模擬授業の事前実習 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業のための学習指導案に基づき、その内容と指導方法について、予めその確認のための事前実習を行なう。	模擬授業実施に向けての準備	4時間
第14回	指導計画と授業展開（5）模擬授業の実施 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業を関係教員の授業参観の下で実際に行ない、質疑応答等を含め、授業実践力・指導力の改善・向上のための場とする。	行った模擬授業のふりかえり	4時間
第15回	まとめ：重要内容への全体的補足・補充説明とレポートの作瀬尾 模擬授業を含め15回の講義全体のふりかえりと、必要に応じた補足・補充説明を行なう。模擬授業の振り返りを含めたレポートの作成	学期末レポートの作成	4時間

授業科目名	道徳教育の研究				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式を中心に進めるが、質疑用プリントなどを用いて受講者が参加する授業を実施する。その際グループワークも実施する。				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪、正しさについての理解をもとに、児童に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに、「特別の教科 道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら、学級づくり、児童理解、生活指導のあり方についても取り上げる。その中で、道徳教育の理論や方法、道徳性の発達について、実際の児童の姿を具体的に示しながら、教師として求められる姿勢や態度、指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳的に生きることにはどのような意味があるのか、道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業理論、教材理解、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
2．DP5. 計画・立案力		目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート	30%	： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10%	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10%	： 授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験	50%	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・	・ 2018年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回	授業内容	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることについて理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	道徳的に生きることの意味 道徳的に生きることは世知と一致しないように見えるかも知れない。果たしてそうなのか？道徳的に生きることの意味について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることについて理解を深める。	4時間
第2回	価値観の多様化の中の道徳教育 現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、価値観が多様化する社会における道徳教育について考えを深める。	4時間
第3回	生徒（子ども）と社会と道徳上の課題 今の日本社会における子どもの道徳に関わる問題について話し合うとともに、資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間

第4回	学習指導要領がめざす道徳教育	『中学校学習指導要領』やノートを用いて復習し、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」の特質について整理し、記憶する。	4時間
第5回	道徳教育において分かることの意味	道徳教育では「分かること」よりも「感じること」「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。ここで、今一度、道徳教育において分かることの意味について考え、理解を深める。	4時間
第6回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材を用いて、それで何を指導するか、どんなことに気付かせるかについての理解を深める。	4時間
第7回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業構想	前時の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、それを交流し合う中で、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業理論について理解を深める。	4時間
第8回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業	前時の授業及びその後で作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについての理解を深める。	4時間
第9回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業	前時と同じ教材を用いて指導者が模範授業（模擬授業）を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	4時間
第10回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくり	これまでの模擬授業、師範授業を通して深まった考えに立ち、新たな教材を用いて指導案を作成する。	4時間
第11回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業の検討会	前回に作成した指導案について、検討し、課題や改善点を明確にすることで、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	4時間
第12回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価	『学習指導要領』が示す「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について理解するとともに、授業評価、子どもの評価の意味についても理解する。	4時間
第13回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成について、『中学校学習指導要領』の基本的な考え方、その意味について理解する。	4時間
第14回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育	学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることを理解した上で、道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解する。	4時間
第15回	学級づくりと道徳教育	学級集団は、道徳性を育む上で重要な場である。そこで、どのような目標をもって、どのように生徒（子ども）を育てていくのか、その基本的な考え方について理解を深める。	4時間

授業科目名	特別活動				
担当教員名	松田修				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義を中心に行う。ただし講義だけでなく、特別活動を創造していくために、どのようなことが必要になるかディスカッションを行う。				

授業概要

特別活動が教育活動の中で、児童・生徒の人間形成にどのような役割を果たしているのかを理解するとともに、特別活動を推進していく上で必要な基礎的・基本的な知識・技能を修得することを目的とする。また、特別活動は「いじめ・不登校などの予防的な役割」を果たすなど道徳教育とのつながりやキャリア教育の要として期待されており、特別活動の基盤である「学級活動」と「他の教育活動」との関連についても理解を深め、教育現場での様々な課題解決に向けての指導の在り方を探る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 特別活動についての基礎的・基本的な理解	目標： 特別活動活動の指導法や人間形成に果たす役割が理解できる
汎用的な力 1 . DP6. 行動・実践		「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」などについて、その大切さを自分なりに自覚し、行動しようとする事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業振り返りシート	40%	： 「授業内容を的確にまとめて理解できているか」という観点から評価する。
期末テスト	60%	： 授業内容についての的確に把握できているかを確認するための筆記テストを実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 初回授業時に指示する。

授業計画

回数	授業内容	特別活動の経験や体験について、具体的な活動について整理しておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 教育課程における特別活動の位置づけ、教育的意義、指導の基本 本授業の進め方や目標、評価の在り方について確認する。また、教育課程における特別活動の位置付けや教育的意義、指導の基本について学ぶ。	特別活動の経験や体験について、具体的な活動について整理しておく。	4時間
第2回	特別活動の歴史の変遷 アメリカの教科外活動に源流をみる特別活動についての流れや日本の特別活動の歴史の変遷を学ぶ。	授業内容を配布資料をもとに復習し、特別活動の歴史の変遷についての理解を深める。	4時間
第3回	特別活動の特質と指導原理 特別活動の目標や内容、特質などから特別活動で大切にしたい視点や指導原理について学ぶ。	授業内容を配布資料を用いて復習し、特別活動の特質、指導原理や大切にしたい視点などについて理解を深める。	4時間
第4回	学級活動① 学級活動の目標・内容と指導法 学級活動の目標・内容と指導法（合意形成・意思決定）について学ぶ。	授業内容を配布資料を用いて復習し、学級活動の目標・内容及び指導法について理解を深める。	4時間
第5回	生徒会活動の目標・内容と指導法 生徒会活動の目標や内容及び指導法について学ぶ。	授業内容を配布資料を用いて復習し、生徒会活動の目標・内容・指導法について理解を深める。	4時間
第6回	学校行事の目標・内容と指導法 学校行事の目標や内容及び指導法について学ぶ。	授業内容を配布資料を用いて復習し、学校行事の目標・内容・指導法について理解を深める。	4時間
第7回	特別活動と他の教育活動との関連	授業内容を配布資料を用いて復習し、特別活動と各教科・生徒指導等の関連について理解を深める。	4時間

特別活動と他の教育活動（各教科・生徒指導等）との関連について学ぶ。

回数	内容	時間
第 8回	第1回から7回までのテストと振り返り 第1回～第7回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況を振り返り、今後の計画を構想する。	時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間

授業科目名	教育方法論				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	・講義形式が中心です。学生同士や教員とのあいだでの議論も適宜取り入れます。 ・毎回授業の終わりに、「小レポート」（400字程度）に取り組みます。				

授業概要

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、生徒を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な知識	教育方法の基本的な考え方や知識を修得することができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	授業づくりに関する専門的な知識・技術	教育方法の基本的な考え方や知識を修得したうえで、それらを学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		授業づくり際に、教員が直面する課題を見出すことができる。
2 . DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。
授業内課題を含むレポート	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中耕治編著	・ 教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画	・ 協同出版	・ 2017年

参考文献等

『中学校学習指導要領解説』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説』（文部科学省）
佐藤学『教育の方法』左右社 2010年
田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年
奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
天野正輝編『教育方法 教育の方法と技術』協同出版、そのほか、適宜紹介。
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付したりする。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	後日連絡する
場所：	後日連絡する

授業計画

回数	内容	学修内容を整理する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 講義の進め方や評価の方法についての説明、「教育方法」の範囲 本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素について考える。	学修内容を整理する。	4時間
第2回	教授と技術 教授法・学習観の変遷、教師と学習者の応答 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	配布資料を読み、整理する。	4時間
第3回	学習者の学びと教育内容をつなぐ指導言（1）教師の指導言の重要性、4分類、指示・説明 教師の指導言の重要性、種類を知る。	教師の指導言を観察する。	4時間
第4回	学習者の学びと教育内容をつなぐ指導言（2）発問論 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	発問づくりを行う。	4時間
第5回	学習者の学びを高める教材・教具論（1）教育内容・教材・教具の区別、良い教材の特徴・条件 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具を探す。	4時間
第6回	学習者の学びを高める教材・教具論（2）教材解釈・教材開発・教材開発の実践 教材解釈・教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具を工夫する。	4時間

第7回	学びの様式と指導形態（1） アクティブ・ラーニング、情報機器の活用の意義 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	学修内容を整理する。	4時間
第8回	学びの様式と指導形態（2） 板書の意義、電子黒板やICTを通じた情報機器の活用 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	マイクロ・ティーチングで扱う内容について、板書計画を立てる。	4時間
第9回	教育目標・評価論 目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方と方法を知る。	これまでの学修内容を整理する。	4時間
第10回	中間まとめ・マイクロ・ティーチングオリエンテーション 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。	4時間
第11回	マイクロ・ティーチング（1） 5分間の授業導入 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	マイクロ・ティーチング（2） 5分間の授業導入、分析 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。	4時間
第13回	学習指導案の作成・構想（1） 目標、内容の練り直し 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案レポートを作成する。	4時間
第14回	学習指導案の作成・構想（2） 発問・教材の検討、アクティブ・ラーニングの授業づくり 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案レポートを完成させる。	4時間
第15回	総括と質疑応答、補足 グループで学習指導案を検討し、これからの教育実践の在り方について考察する。	学習指導案レポートの吟味、修正を行う。	4時間

授業科目名	生徒指導論				
担当教員名	土田 光子				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

前半では、学校教育における生徒指導、進路指導の位置づけや教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級経営の在り方について考究する。後半では進路指導・キャリア教育について学び、それぞれ理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導、進路指導に関する現代的な課題を探究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

望ましい生徒指導・進路指導のあり方に対する知識はもとより、多くの事例に触れグループワーク・ロールプレイなどで技術を身につけ、実践できる力を育むとともに、教員の専門性について理解を深める。

目標：

生徒・進路指導に対する知的理解をもとに実践力をつけるには、事例を分析し方針を立て実行する力が必要であることを理解し、子どもの未来をともに切り開いていくことの責任を実感し、教員になるべく決意を固める。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

自分の役割を果たすことは言うまでもないが、個人で完結できる指導はないことを自覚し、校内での報告連携相談はもとより、家庭・地域・関係諸機関との連携の方法を知る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- その他(以下に概要を記述)

事例検討は各自で書き込んだポストイットカードを班の模造紙に貼りだし班で練った結論を全体に発表する形で行う。各班からの発表を受け全体で討議し、今日の学びについて振り返りシートにまとめて提出する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

毎回記入する振り返りシートは、全員分すべて打ち込み、それぞれに追加説明や評価、質問があればその答えを書き込んだ形でプリントにし、次回の授業の冒頭で、前時の復習の教材として使う。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。振り返りシートは、教員からの質問に応じて的確に意見を論述することを標準とし、また、授業中の論理的、積極的な発言なども評価します。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加度、まとめとしての振り返りシート15回分

50%

4回のレポート

50%

評価の基準

： グループワークで各自書いたポストイットカード、発表の貢献度・発表内容と、振り返りカードに自分の意見が書かれ、その内容が適切かを、100点満点で評価し、15回分の平均点を見る。

： 15回目の授業で、この授業で自分がどう変わりどんな力をつけたのか、今後の課題は何かについて、800字のレポートを書く。他に、3回別途レポートの提出を求める。計4回のレポートを100点満点で採点し平均点を見る。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省 『生徒指導提要』 2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： メールのやりとりで行う。 土田のメールアドレス m.tsuchida.069157@hotmail.co.jp

授業計画

回	授業内容	学修内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：生徒指導・進路指導の授業概要 生徒指導・進路指導を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。	学修内容を整理する。この講義に期待するもの、および、自分の問題意識を整理しておく。	4時間
第2回	学校現場における生徒指導・進路指導の位置づけと体制 学校現場における生徒指導・進路指導が、学校全体の中でどのように位置づけられどのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知る。またそれはどのような子ども観をもとに何を目指して実践されているかを知る。グループワークを行う。	学修内容を整理する。生徒指導・進路指導の位置づけと体制について、グループワークで論議したことをまとめておく。	4時間

第3回	<p>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動など教育課程における生徒指導・進路指導の意義と重要性</p> <p>「生徒指導とは問題事象が生じたときに当事者に対して行う指導」「進路指導とは就職・進学に関する個別面談のこと」という受講生の固定観念を払拭し、日常を含めた様々な場面、各教科各領域で取り組まれているものであるを理解するとともに、その重要性について理解する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。学校教育現場で生徒指導・進路指導がどのような時間・場面で取り組まれているか、まとめておく。</p>	4時間
第4回	<p>生徒指導の理論と手法（１）－ 集団指導・個別指導の原理と方法－ 集団指導</p> <p>全ての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方とともに、個別の課題を抱える生徒への個別の生徒指導があることを認識し、ここでは主に集団指導を中心にその原理と方法について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。集団指導についてのグループワークでの論点をまとめておく。集団指導について文献に当たる。</p>	4時間
第5回	<p>生徒指導の理論と手法（２）－ 学級集団形成の目的と方法－ 自尊感情を育む</p> <p>生徒が集団の中で起こる対立や葛藤を教材に、その解決を図るさまざまな取り組みによって個を鍛え、自尊感情が芽生え、結果として集団全体も育っていく事実を知り、集団づくりの大切さを実感する。ここで言う自尊感情とは単にほめられて育つものではなく、他者と協力して困難に立ち向かい、互いに自己の役割を責任を持って果たすことで課題克服に至った達成感のよって生まれる感情であることを多数の実践事例から発見していく。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。同調圧力の蔓延した仲良し学級ではなく、多様性を尊重し合える関係性の中でようやく安心と共同が生まれる実践例を読み、意見をまとめる。</p>	4時間
第6回	<p>生徒指導の理論と手法（３）－ 個別指導 生徒指導に関する法令内容の理解</p> <p>個別指導について考究する。問題行動に走る生徒の背景について事例をもとに分析し、生徒の発するSOSを見逃さないことの重要性と、生徒が、抱える課題につぶされず自己と向き合う生き方を探求していく手法を学ぶ。また生徒の人權を尊重した生徒指導とは何か、個別指導で陥りがちな体罰の問題も含め、法令内容を理解し、懲戒・体罰と教師の指導性について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。個別指導の事例に触れ、その原理と手法をまとめるとともに、陥りがちな失敗、注意点についても整理しておく。</p>	4時間
第7回	<p>実践事例研究（１）－ いじめ問題（インターネットによる誹謗も含む）の構造と対策</p> <p>いじめに関するワークショップから、いじめには、被害者・加害者・傍観者・介入者（味方）の四種類の立場があるとともに、被害者だけが自分では選べない立場（他は自分の力で変えられる立場）であることを発見する。この構造を知った上で、どうすれば味方になれるのか、ロールプレイで考える。またメディアリテラシーについても考究する。</p>	<p>学修内容を整理する。いじめに関する四種類の立場について自分の体験を振り返り、配布されたプリントに記入し、次回提出する。</p>	4時間
第8回	<p>実践事例研究（２）－ 暴力行為・虐待問題の構造と対策</p> <p>ネグレクトや心理的虐待を含む虐待問題の実際を多くの事例を通して知り、生徒を暴力に駆り立てる背景に、自身が受けてきた虐待の存在がある可能性が極めて高いことを理解する。担任ひとりが抱え込んで解決できる課題でないことを認識し、連携の在り方と重要性について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。虐待問題において学校・（家庭）・地域・関係諸機関の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外で探しまとめる。</p>	4時間
第9回	<p>実践事例研究（３）－ 不登校への対応</p> <p>不登校について、背景によって様々な実態があることを知り、解決に向けた取り組みの事例をもとに学校の責務を実感するとともに、学校・家庭・地域・関係諸機関の連携が大きな支えになることを理解する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。不登校対応において自身の学校時代の体験や文献などから、学校・家庭・地域・関係諸機関の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外に探しまとめる。</p>	4時間
第10回	<p>キャリア教育・進路指導の理論と進め方</p> <p>キャリア教育を単なる職業体験学習、進路指導を単なる高校選択指導と錯覚することがないように、その本質を人生教育として捉え直し、理論と進め方について具体的に考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、キャリア教育について文献にあたる。</p>	4時間
第11回	<p>生徒指導・進路指導・キャリア教育における学校・家庭・地域社会の連携</p> <p>学校が家庭や地域と連携して取り組んだ生徒指導・進路指導・キャリア教育事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。地域をあげた取り組みは実は日常的にあることが分かる新聞記事をもとに感想をまとめる。</p>	4時間
第12回	<p>職業に関する体験学習を通したカリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>生徒や地域の実態を踏まえ、教育課程を編成・実施・評価して改革を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくという「カリキュラム・マネジメント」という考え方を知り、何日間かの教科授業をなくして地域の様々な事業所に向いて取り組む職業体験学習を核にして、具体的にその方法を理解する。</p>	<p>学修内容を整理する。「カリキュラム・マネジメント」について、自分なりに定義できるよう、文献にあたる。</p>	4時間
第13回	<p>ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育</p> <p>全ての生徒が学校や学級の生活により良く適応し、豊かな人間関係の中で有意義な生活を構築できるようになるとともに、将来の生き方を考え行動する態度や能力を育てていくという、ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の在り方について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。「ガイダンス機能の充実」というキーワードで文献にあたる。</p>	4時間
第14回	<p>キャリアカウンセリングの考え方と方法</p> <p>生徒が自己実現を目指す中で生じる葛藤や迷いに対し、どのような支援・援助活動が出来るのか、そこで行われるカウンセリングの考え方と実際について、事例をもとに考究する。単なる夢の追求ではなく、生徒自身の適性・能力を含めた自己理解を促し、どう支援し方向付けるか、受講生自身の体験を重ねながら探求する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。自分が受けた進路指導・キャリア教育と重ね、役だったアドバイスについてまとめておく。</p>	4時間
第15回	<p>まとめ－理論と実践の統合を図るために</p> <p>望ましい生徒指導・進路指導の在り方について考究してきた今、教員として実践していくにあたり、今までの学びで獲得した力・変化した自分について押さえた上で、今後つけたい力、深めたい課題についてレポートにまとめる。</p>	<p>学修内容を整理する。これまでの授業全体から学んだことをもとに、今後の課題と展望についてまとめることで、教員になる覚悟と決意につなげる。</p>	4時間

授業科目名	教育相談				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	基本的に講義形式で進めるが、ロールプレイやグループワークによる体験的理解を重視すると共に、対話のある授業を目指す。				

授業概要

教育相談とは、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動であり、大別すると、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は前者に焦点を絞り、教員として子どもたちや保護者の指導・援助に資する実践的な理論とスキルの習得を目指す。そのために、学校教育相談の意義やそれが担うべき個人-社会の適応や、学業、キャリア領域について、問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえて個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育相談に関するスキルの習得	教育相談に関する習得したスキルをロールプレー等を通じて示すことができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。
2．DP4. 課題発見		学校における教育相談の課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内テスト	30%	： 授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題レポート類	45%	： 授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	25%	： 授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米田薫	『厳選 教員が使える5つのカウンセリング』	ほんの森出版	2007年

参考文献等

日本教育カウンセラー協会編「教育カウンセラー標準テキスト」 図書文化 2013
他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業で体験したことをテキストを読んで理解を深める復習を心がけることを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜日2時間目
場所：	西館4階103研究室
備考・注意事項：	質問はEメール(yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「教育相談質問：〇〇(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育相談とは 教育相談の定義、領域と内容 歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	4時間
第2回	教育相談の基礎 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメントについて学びます。	4時間
第3回	集団対象の教育相談（1）— 自己理解をテーマとする構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウンターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	4時間

第4回	集団対象の教育相談（2）ー自己受容を深める構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第5回	集団対象の教育相談（3）ーソーシャルスキル教育 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学びます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第6回	集団対象の教育相談（4）ーSEL 社会性と感情を育てる教育であるSELについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第7回	個別面接の基本（1）ー非言語的側面 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	個別面接の基本（2）ー言語的側面 個別面接の際のポイントとなる言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	個別面接の基本（3）ー模擬面接 個別面接の基本として学んだ事項について模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。模擬面接レポート作成	4時間
第10回	発達と学習についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第11回	不登校についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	いじめ・反社会的行動についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	支援を要する子どもの理解と集団を含む対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第14回	キャリア教育とキャリアカウンセリング テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第15回	教育相談の現状と展望 チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	教育実習に向けて、実習の基本的事項、学校現場の組織・服務上の注意等について解説を行います。また各自の実習校での学習指導案を作成し、どのような美術の授業おこなうのかを熟考し、相互討議をしながら模擬				

授業概要

本科目では、教育実習に向けて必要な基本事項と心構え、学校現場の組織・服務上の注意等についての学習を行います。また、実習時の指導案を作成することを通して実習に対する目的を明確にするようにします。さらに、受講者全員の教育実習での美術科授業シミュレーションを実施し、美術科授業運営についてグループで討議します。その後全体で討議を行い、授業内容の改善を図ります。教育実習終了後は、受講者全員が実習時に行った授業を紹介し、全体で振り返りを行い成果と課題、反省点について討議し総まとめを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習において必要な知識、技能の習得	目標に対して授業を適切に計画し、実行できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		実教育実習において授業を指導教員の指導のもとにおこなう。自ら学ぼうとする意欲と態度
2 . DP6. 行動・実践		実習授業および研究授業を指導教員の指導のもとにおこない、自ら学ぼうとする意欲と態度を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

講義への参加の度合い

評価の基準

：教育実習への意欲と心構えを持ち、適切な美術科指導案を作成できているか。討議時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることができているかを評価する。

30%

授業内での模擬授業

：学習目標に則した授業を計画し、実行できているか、自ら学ぼうとする意欲と態度を持っているかを評価する。

70%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限

場所： 研究室(美術アトリエ棟2F)

備考・注意事項：上記以外で質問がある場合はEメール（yagi-r@osaka-seikei.ac.jp）にて受け付けます。Eメール件名「教育実習事前事後指導について 氏名と所属、学籍番号」を必ず明記してください。

授業計画

回数	授業内容	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・意義および心得 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教育実習の目標・意義を理解する。教育実習に向けて具体的な教材開発のための準備を行う。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。	教育実習の目標・意義について理解し、具体的な教材開発の準備を行う。	2時間
第2回	教育実習事前指導 教育実習の目標・心構え 教育実習の目標が理解でき、適切に心構えができるように解説する。 また、学生の主体的意見交換により、理解を深める。	教育実習の目標と心構えを整理し、理解が深まるようにする。	2時間
第3回	教員組織・運営・服務上の注意点 学校現場の組織・運営・服務上の注意点を理解できるようにする。	学校現場の組織・運営・教員の服務についてまとめる。	2時間
第4回	授業の事例研究 教育実習に向けて具体的な授業準備をする。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第5回	教育実習授業と討議 (1) 教育実習に向けての具体的な授業準備をする。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第6回	教育実習授業と討議 (2) 模擬授業案の討議を行う。	模擬授業案の再検討をおこなう。	2時間

第7回	教育実習授業と討議 (3) 教育実習に向けて具体的な授業の準備を行う。	授業目標に合った授業指導案を作成する。	2時間
第8回	教育実習授業と討議 (4) 教育実習に向けての問題点の検討を行う。	授業の課題点を整理する。	2時間
第9回	教育実習実践演習 (1) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討する。	模擬授業の振り返りを整理する。	2時間
第10回	教育実習実践演習 (2) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討する。	模擬授業の振り返り、自分ができていないことは何かをまとめる。	2時間
第11回	教育実習実践演習 (3) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討する。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第12回	教育実習実践演習 (4) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討する。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第13回	教育実習実践演習 (5) 模擬研究授業 まとめと考察を行う。	模擬授業を振り返り、まとめる。	2時間
第14回	事後指導・個別の実習についての検討 実習の反省・成果について検討し整理する。	実習日誌の整理と実習校に礼状を書く。	2時間
第15回	事後指導・教育実習のまとめ 教育実習のまとめ、改善課題、気づいたことを整理する。	自分自身の教育実習をまとめる。	2時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	堤正史・柴沼真				
学年・コース等	3年/4年	開講時期	前期/後期	単位数	1
授業形態	講義・面談・模擬授業・体験発表等				

授業概要

本学の教育実習は、原則母校の中学校、高等学校において教員になるための実習を行うことになっているが、その実習の効果を最大限に得られるようにする必要がある。そのために、この授業では、まず教育実習の目標、意義、心得および実習生として現場において必要な各種のスキルを学ぶ。実際に、学習指導案の作成、模擬授業を行って授業運営についてディスカッションする。さらに教育実習を行った後、実習体験の発表を行い、各自の教育実習を反省し評価する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	具体的内容： 教育実習において必要なスキル等の獲得	目標： 授業を目標に対して適切に計画し、実行できるようにすること
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		目標に呈して適切に計画する力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内での模擬授業	70%	： 目標に対して、適切に授業を計画し、実行できているか。
模擬授業における指導案作成	30%	： 適切に授業計画を作成できているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日 3 時限目
場所：	研究室
備考・注意事項：	オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・意義および心得 教育実習の意義を学びます。	1時間
第2回	教員組織・服務上の注意点等 教員がどのような集団で活動するかを学びます。	1時間
第3回	一般教養・マナー等 教育実習に行った際のマナーを学びます。	1時間
第4回	授業研究 1 学習指導案の作成 教育実習に向けた学習指導案を作成します。	1時間
第5回	授業研究 2 学習指導案の発表 学習指導案を発表しあって、学びます。	1時間
第6回	事前指導面談 教育実習にあたって、それぞれの注意点をディスカッションします。	1時間
第7回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	1時間
第8回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	1時間
第9回	模擬授業とディスカッション 3 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	1時間
第10回	模擬授業の振り返り 模擬授業全体を振り返り、自分に足りないことは何かを学びます。	1時間
第11回	教育実習体験発表 1 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	1時間

第12回	教育実習体験発表2 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	教育実習の体験をまとめておく。	1時間
第13回	教育実習評価、教員採用試験について1 教育実習における評価について学びます。	教員採用試験について必要な事項を調べておく。	1時間
第14回	教育実習評価、教員採用試験について2 教員採用試験について学びます。	教員採用試験について必要な事項を調べておく。	1時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、教職力がどのように身についたかを考察します。	教育実習で何を学習したかをまとめておく。	1時間

授業科目名	教育実習 I / 教育実習 II				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	教育実習では美術科教員として必要な知識、技術、態度等の資質向上に努め、指導教諭の指導のもと、実習校の教育活動全般（美術科授業、学級活動、生徒指導、特別活動、クラブ活動）に参加する。				

授業概要

本科目では、実習校による教育実習プログラムが中心となります。教育実習を有意義なものとするために、事前学習として既習事項の再確認を行います。実習直前に実践的な学習を行うことによって、教育実習の心得を習得し、教育実習において必要な事項の準備を行います。また、実習校における教育実習においては、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、既習内容を体験し、教師にとって必要な態度、知識・技術等資質の向上が図れるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習のための能力の育成	教育実習の意義、目的を理解し主体的に実習に取り組むことができる。
汎用的な力		実習の持つ意味を理解し実践できる。
1 . DP6. 行動・実践		3 週間の教育実習を責任もって完遂することができる。
2 . DP7. 完遂		実習生の役割を理解し、学校運営に関わることができる。
3 . DP9. 役割理解・連携行動		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

教育実習は原則として1回でも欠席があると単位が認められません。体調を万全に整え、実習に臨むこと。欠席があると放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な実習の実践と準備ができたか。
100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習は、出席厳守。
教育実習 I・II は学外実習科目のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教育実習に行く際の直前の心得を学ぶ。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。	教育実習に行くために必要な内容を考えておく 4時間
第2回	教師の服務・実習日誌・板書・挨拶・返礼の指導 教師の服務・実習日誌・板書・挨拶・返礼を学ぶ。	しっかりと授業指導の準備をする 4時間
第3回	実習校における教育実習(1) 実習校による教育実習プログラム (1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解する。 (2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もある。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。 4時間
第4回	実習校における教育実習(2)	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。 4時間

	<p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解する。</p> <p>(2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もある。</p>		
第5回	<p>実習校による教育実習プログラム(3)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解する。</p> <p>(2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もある。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第6回	<p>実習校による教育実習プログラム(4)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解する。</p> <p>(2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もある。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第7回	<p>実習校による教育実習プログラム(5)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等をおこなう。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学ぶ。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第8回	<p>実習校による教育実習プログラム(6)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等をおこなう。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学ぶ。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第9回	<p>実習校による教育実習プログラム(7)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等をおこなう。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学ぶ。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第10回	<p>実習校による教育実習プログラム(8)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等をおこなう。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学ぶ。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第11回	<p>実習校による教育実習プログラム(9)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備える。</p> <p>(5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨む。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第12回	<p>実習校による教育実習プログラム(10)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備える。</p> <p>(5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨む。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第13回	<p>実習校による教育実習プログラム(11)</p> <p>実習校による教育実習プログラム</p> <p>(4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備える。</p> <p>(5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨む。</p>	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第14回	<p>教育実習、実習日誌の評価</p> <p>実習日誌を書き込み持参したものの評価。</p>	実習日誌の最終整理をする	4時間
第15回	<p>教育実習のまとめ</p> <p>教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察する。</p>	学習成果を整理しておく	4時間

授業科目名	教育実習 I				
担当教員名	堤正史・柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	学生による模擬授業、教育実習、実習体験発表				

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	具体的内容： 教育実習を成功させるための能力の育成	目標： 教育実習を成功させる。
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。
100%

評価の基準

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目
場所： 研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 教育実習に行く際の心得を学びます。	教育実習に行くために必要な内容を考えておく。	4時間
第2回	教師の服務・板書・指導案の作成 教師の服務規定を学びます。	教員の服務規定について考えておく。	4時間
第3回	模擬授業① 第1グループ 受講生の模擬授業から学びます。	授業を準備する。	4時間
第4回	模擬授業② 第2グループ 受講生の模擬授業から学びます。	授業を準備する。	4時間
第5回	実習校における教育内容・人間関係・日誌の書き方、留意事項など 実習に向けて必要な作業を学びます。	実習日誌をよく読んでおく。	4時間
第6回	実習校における教育実習① 教育実習で学んでもらいます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第7回	実習校における教育実習 ② 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第8回	実習校における教育実習③ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間

第9回	実習校における教育実習④ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第10回	実習校における教育実習⑤ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第11回	実習校における教育実習⑥ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第12回	教育実習体験発表① 第1グループ 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第13回	教育実習体験発表② 第2グループ 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第14回	実習日誌の評価 実習日誌を評価します。	実習日誌について、まとめなおす。	4時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察する。	学習成果を整理しておく。	4時間

授業科目名	教育実習Ⅱ				
担当教員名	堤正史・柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	学生による模擬授業、教育実習、実習体験発表				

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	具体的内容： 教育実習を成功させるための能力の育成	目標： 教育実習を成功させる。
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。
100%

評価の基準

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目
場所： 研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 教育実習に行く際の心得を学びます。	教育実習に行くために必要な内容を考えておく。	4時間
第2回	教師の服務・板書・指導案の作成 教師の服務規定を学びます。	教員の服務規定を覚えておく。	4時間
第3回	模擬授業① 受講生の模擬授業から学びます。	授業を準備する。	4時間
第4回	模擬授業② 受講生の模擬授業から学びます。	授業を準備する。	4時間
第5回	実習校における教育内容・人間関係・日誌の書き方、留意事項など 実習に向けて必要な作業を学びます。	実習日誌をよく読んでおく。	4時間
第6回	実習校における教育実習① 教育実習で学んでもらいます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第7回	実習校における教育実習② 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第8回	実習校における教育実習③ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間

第9回	実習校における教育実習④ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第10回	実習校における教育実習⑤ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第11回	実習校における教育実習⑥ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第12回	教育実習体験発表① 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第13回	教育実習体験発表② 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第14回	実習日誌の評価 実習日誌を評価します。	実習日誌について、まとめておく。	4時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察する。	学習成果を整理しておく。	4時間

授業科目名	教職実践演習（中・高）				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	主に演習が授業の中心となります。授業シミュレーションを通じたディスカッションです。途中、外部講師の講義や授業見学も予定しています。最後に教職履修カルテを完成させ、認証を行います。				

授業概要

本科目では、教育実習の体験をもとに、教師として教育現場で勤務することに対する課題とその解決方法を検討します。具体的には、教師としての実践的な応用力を身につけるために、教育実習の振り返りを項目ごとに分け理解を深めたり、検証したりします。また、各回異なる題材設定による授業研究を通して、成果と課題を学生どうして討論します。さらに、外部講師を招聘した講義も設定しており、学校現場の実態や、教師に求められる資質について、実践的な知識を習得する機会となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教職についての意識	教育実習を通して学んだこと、および自分の課題を客観的に認識できている。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習の振り返り	教育実習で行った授業や各種取り組みについてわかりやすくプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		自分が教師として足りないものは何か、自己分析できる。
2 . DP6. 行動・実践		教育実習の授業を再現する際、適切な準備ができている。
3 . DP8. 意思疎通		教育実習の振り返りにおいて、他の学生の例についても興味をもって意見を述べ合うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
 S：設定した目標以上の到達状況である
 A：十分満足できる
 B：概ね満足できる
 C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	40%	： 教育実習の振り返りにおいて、模擬授業や授業研究などのプレゼンテーションが適切にできる。
ディスカッション	20%	： 教育実習の振り返りにおいて、他の学生のプレゼンテーションに興味を持ち、積極的に討議に参加し意見を述べることができる。
教職カルテ	40%	： 教職カルテを完成させる過程を通して、自己の課題を認識・分析でき、自分がめざす教師像を描くことができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回数	授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教職カルテの確認	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業形式と授業内容の確認、および諸注意についての説明を行う。教職カルテの記入状況を各自が確認し、教育実習終了時まで記入する。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。		4時間
第2回	教育実習の振り返り①ー生徒観ー 教育実習を通して、生徒たちとどのように向き合ってきたのか、各自の報告をもとに話し合いながら振り返る。	予習：プレゼンテーションの準備をする。復習：実習の成果と課題について自己分析する。	4時間
第3回	教育実習の振り返り②ー題材観ー	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が扱った題材について再検証する。	4時間

	それぞれの学校現場で、教科内容はどのようなものであったかを振り返りながら、美術科の題材開発について理解を深める。		
第4回	教育実習の振り返り③ー指導目標と評価基準ー 学習指導案で立てた指導目標や評価基準が、実際授業を通して生徒に伝わったか、成果の有無を含めて話し合う。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた目標について再検証する。	4時間
第5回	教育実習の振り返り④ー指導計画ー 教育実習の際にどのような指導計画を立てたか、またそれは実行できたか。成果と反省点を話し合う。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第6回	教育実習の振り返り⑤ー生徒指導ー 実習中の生徒指導、またその他の教師の仕事について、各自の体験をもとに話し合う。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第7回	外部講師による講義 学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。マネジメント学部の『教職実践演習』との合同授業。	教師という職業に対する自分の考えをレポートにまとめる。	4時間
第8回	外部講師による演習 外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。マネジメント学部の『教職実践演習』との合同授業。中間ループリックの実施、学生ヘフィードバック。	教師に求められる資質について、自分の考えをレポートに書く。	4時間
第9回	授業研究① B鑑賞ー印象派ー 印象派の授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合う。	印象派の授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第10回	授業研究② B鑑賞ーシュルレアリスムー シュルレアリスムの授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合う。	シュルレアリスムの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第11回	授業研究③ B鑑賞ーキュビズムー キュビズムの授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合う。	キュビズムの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第12回	授業研究④ B鑑賞ー抽象絵画ー 抽象絵画についての授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合う。	抽象絵画の授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第13回	授業研究⑤ B鑑賞ールネサンスー ルネサンスについての授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合う。	ルネサンスの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第14回	教職カルテの確認 教職カルテを完成させるために記入内容を確認し、未完成、不備等ないように精査する。	教職カルテのすべての項目を記入	4時間
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、各自が理想の教師像を明確にすることができたか検証する。最終ループリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	自分が教職に対してどう考えているか、長所と課題を再認識し、将来に備える。	4時間

授業科目名	教職実践演習（中・高）				
担当教員名	堤正史・柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義だけでなく、各自の授業の振り返りなどを行うとともに、現職教員をお招きしてお話しを伺う、あるいは各自に模擬授業を実施してもらい、それについてのディスカッションをしたりします。				

授業概要

この授業は、教育実習後に、教職につくための総仕上げとして、教職についての理解・教職において必要な技術・能力・意識などについて、自分の実習の経験を基にして、学ぶ授業です。すでに教育実習で経験してわかったと思いますが、実習ですべての事を経験するわけではありません。むしろ教育実習で学びきれなかったことから、実習後により深めて学ぶ内容まで、幅広く教職について学ぶことで、教職に就くために必要な意識を醸成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 実践的教職力を身に着けているか	目標： 教師の仕事を理解したうえで「そうぞう」的な授業を行えるようになる。
汎用的な力 1 . DP5. 計画・立案力		「そうぞう」的な計画をたてられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放業とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
形成的な評価によるレポート作成	100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示する文献等については、各自で読んでおくこと。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日 3時限目
場所：	研究室
備考・注意事項：	なにかあれば、気軽に研究室まで来てください。

授業計画

回	授業の概要説明 教職とは何か？	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の中で何を学んだかを分析しておく。 教職実践演習とは？	4時間
第2回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 自分の教育実習を相対化して分析する。	4時間
第3回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	4時間
第4回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 振り返りの中から、教師にとって必要なスキルをみつけ、スキルアップ方法を検討する。	4時間
第5回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 振り返りの中から、教師にとって必要な心構えを検討する。	4時間
第6回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 ゲストスピーカーとして校長先生にお話ししていただく。	4時間
第7回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 ゲストスピーカーとして副校長先生にお話ししていただく。	4時間
第8回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 ゲストスピーカーとして教頭先生にお話ししていただく。	4時間
第9回	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 模擬授業の指導案を作成する。	4時間

第10回	模擬授業① 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	模擬授業② 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	現在の教育問題の検討 現在の教育問題から、把握しておくべき点について学ぶ。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	模擬授業③ 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	模擬授業④ 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第15回	学びの総合化 教職課程全体を通して、どのような教職実践力が身についたかを考察する。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

授業科目名	職業指導				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	日本における職業教育や職業訓練。大学における進路指導やキャリア教育。また企業社会での職業人へのキャリア教育法やキャリア開発の仕組み等を学びます。業界・職種研究、専門職研究等も実施します。				

授業概要

「職業指導」とは、英語で「Vocational Guidance」または「Career Guidance」と呼ばれます。職業に就こうとする個人に対して、職業選択や職業適性に関する支援をする活動を意味します。実習、講習、指示、助言、情報の提供その他の方法により、その者の能力に適合する職業の選択を容易にさせ、及びその職業に対する適応性を増大させるために行う指導を言います。この講義では社会から大学への要請でもありませんが、実学を重視し、職業に直接結び付く知識や技能を高める実践的な教育プログラムを実施して参ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	この講義での研究を通して、自らの将来のキャリアについて考える。	職業理解を深め、自らの進路に対して明確な自分の考えを述べる事が出来る。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		社会人として、仲間と協力して取組む姿勢・態度を醸成し、行動・実践する力を身に付ける。
2 . DP9. 役割理解・連携行動		自分の役割を理解し、協調性を持ち、協働して物事に取組むチームビルディング力の醸成を目的とする。
3 . DP10. 忠恕の心		協調性と併せ、常に相手の立場を尊重し、相手を思いやる心を育む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を行わない。少人数での講義が予想される。授業は自主的・能動的な取り組みをお願いします。講義の内容としても一社会人としてのレベルでの意識で受講願いたい。特に、討議や質疑応答では積極的な参画を期待します。使用教科書は特に無い。随時、ワークシートや課題、テーマ等の補足資料のコピーを配布する。資料は講義毎に自らバインダーを準備し、綴じ込み管理すること。講義の振り返りに定期的に活用します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の講義の振り返りと事前課題のレポート	60%	講義のキーワードの理解、講義内容が充分記載されているか、事前課題のレポート内容を吟味し、毎回1〜4点で評価する。満点60点。
期末試験	40%	講義から、職業指導・キャリア教育等に付いての基礎知識、或いは自らの将来のキャリアに付き、意見を提示、論述出来るかの問題（論述式）を出題する。満点40点。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は各回の授業時に適宜、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	第1回目の授業時に連絡します。
場所：	個人研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。 注) メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

第1回	ガイダンス・オリエンテーション（授業のねらいと進め方） 「職業」について考える 「職業」の語義、「職業」という言葉はどのような意味を持った言葉か。大学生として、自らの進路、将来のキャリアを描いてみる。大学生の将来のキャリアへの心構えを学びます。	将来の自分の職業について考え、自分の意見を述べられるように準備しておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回			4時間
第2回	大学に於ける進路指導の基本的理念 大学における進路指導とは何か。何故それが必要か。大学生の職業選択の現実。	大学卒業生の就職状況・企業の雇用環境にて付いての現状を考察してみる。	4時間
第3回	キャリア開発と職業指導	将来の自分の職業について考えてみる。何故、働くのか、事前に自らの考えをレポートに纏めておく。	4時間

	各個人の身を立てる道として職業を探索・選択・獲得し、職業を磨き上げる行為。キャリア開発の中核となる活動が職業指導 (Vocational Guidance) であることの理解。		
第4回	キャリア開発と職業適性 ドナルド・E・スーパーのキャリア理論やF. パーソンズ、エドガー・シャイン等の理論を知る。ライフステージ、ライフロール、価値観の視点から考えてみる。	講義の内容を参考に、自分の価値観を自分自身でしっかり把握し、自分がどんな仕事に向いているのか、一度、判断してみる。	4時間
第5回	職業の種類、産業構造の変化と職業 将来の自らの適職・天職は何か。固定概念の打破、希望職種の変化、産業構造の変化に伴い、職業の種類も大きく変わること学びます。企業経営者やアントレプレナー (起業家) 等についても理解する。	企業社会における、業界・業種、職種研究も大まかながら実施しておく。自らの就業を希望する業界・業種に付き、レポートに纏めてみる。	4時間
第6回	キャリア開発支援の実情 就職支援の内容、キャリアカウンセリング、インターンシップ研修等、キャリア教育と循環再教育 (リカレント教育) についても学びます。	就業支援の為に、どのような公的機関や、私的なサービス機関が活動しているか、事前に調査しておく。	4時間
第7回	企業社会とは、法人組織とは、業界・業種研究 改めて業種・業界を知る。職種研究の実施、脱ガラバゴスワーク、上場会社・非上場会社の違い、大企業・中小企業・営業性個人等に付き、学ぶ。	法人と個人の違い、NPO法人や社団・財団法人等の特殊法人についても事前に研究しておく。	4時間
第8回	企業の雇用形態、労働基準法とは 日本における雇用形態、年功序列、終身雇用、契約社員、非正規雇用、パート、ブラック・ホワイト企業等、言葉の意味の理解、どんな形態での就業を求めるか。労働基準法等基本的な法令について学びます。	自らはどんな形態での雇用を希望するのか。ワークライフバランス等の意味も事前に考察すること。	4時間
第9回	専門職社会人とは 専門職とはどんな職種があるか、プロフェッショナルとは神に宣誓 (プロフェス) するということからきていることの理解。様々な職業について学びます。	教職や公務員等も含め、多岐に亘る職種を知る。自身が興味のある職種・職務についてまとめる。	4時間
第10回	企業が求める人材とはどんな学生か 企業や組織の目的や存在意義は。企業とは何かの復習、企業は「人」なりの意味は。企業のグローバル化、異なる「職文化」や多文化共生社会への対応、等々社会や企業は一般的に現在の大学生に対してどのような能力向上を求めているのかを学びます。	組織や企業に付いて考えてみる。企業人とは、職業人とは何か。	4時間
第11回	企業における人材育成法とは 企業における人材育成法とは。職業人を養成するために、企業ではどんなことをやっているのかを学びます。社員研修、OJT研修、OFF・JT研修、チームビルディング研修、モチベーションアップ研修、階層別研修、経営幹部研修等々。社会人としての基礎力とは、どのようにして企業が社会人教育に力を入れているかを知ります。	組織における自身の成長の方向性と達成されたときの自身についてレポートにまとめておく。	4時間
第12回	企業における人的資源管理について 企業における人事戦略とは。リーダーシップとマネジメント、人的資源管理システムとは。企業の要諦である「人・物・金・情報」について学びます。何故、一般的に「企業はひとり！」と謂われるかを学びます。	一般の企業において、「人」はどんな意味を持ち、どのように処遇され、管理・運用されているのかを考察します。	4時間
第13回	企業統治 (コーポレートガバナンス) とは 社会人の基本的な常識・マナー、挨拶、躰、規律、等々。職業人としての「矜持」とは。企業における不祥事とは、コンプライアンス (法令順守)、コーポレートガバナンスコード、ハラスメント等に付き学びます。	職業人として、一般にいう「不祥事」とは一体どんなものなのかを考える。	4時間
第14回	組織とコミュニケーション・対話力の醸成 人間理解、自分自身の理解、戦略思考力について自己表現力の向上を学びます。企業で実施されている5Sや6S運動とは何なのか、ストレスチェック等に付き学びます	報・連・相の組織における意義を考えます。メンタルヘルスとは何か、レポートに纏めます。	4時間
第15回	進路相談の方法と技術 (カウンセリング等)、講義のまとめ 履歴書、エントリーシート、会社説明会、グループ討議・ワーク、面接試験、キャリアカウンセリング、将来の進路、就業目的の明確化、面接で必ず聞かれる質問、ハーズバークの動機付け・衛生理論、等について学びます。	講義の「まとめ、振り返り」をレポートに纏めます。	4時間

授業科目名	介護体験				
担当教員名	堤正史・柴沼真・石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	特別支援諸学校に2日、社会福祉施設に5日の介護現場での実習体験をおこないます。体験に先立ち、被介護者、介護方法、施設を理解するための事前学習を行った後、各施設や支援学校での介護の体験を実施します。				

授業概要

高齢者介護および障がい者支援の基礎知識を習得し、わが国の障害者教育と障害者支援（福祉）の歴史と制度を含めた態勢について学ぶ。さらに少子高齢化の中でわが国が抱える諸問題についても考える。
社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習の方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事前学習をおこなう。さらに各グループごとの介護体験実習の成果、反省事項のプレゼンテーション発表を事後学習の一環として実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	教員として持つべき考え方や態度の修得。	他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を保つことができる。
汎用的な力		
1 . DP9. 役割理解・連携行動		特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲と態度を持つ。教員として介護のあり方を涵養することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実習日誌、まとめ	50%	： 実習日誌、発表まとめの記述内容を評価する。
実習への参加	50%	： 特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
増田雅暢他	『よくわかる社会福祉施設』第4版	全国社会福祉協議会	2015年

参考文献等

授業に必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。
「HOW TO 介護」 大阪府社会福祉協議会

履修上の注意・備考・メッセージ

介護体験は、出席厳守。
学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日 3限(堤)	水曜日 4限(石井)
場所：	西館3階堤研究室	美術研究室(石井)
備考・注意事項：	上記以外に質問などあるときはメールにて。Eメールには氏名と所属、学籍番号、「介護体験について」を必ず明記してください。講義の前後でも質問を受け付けます。	

授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	社会福祉施設の概要理解と、訪問先の選択と決定 介護体験のガイダンスと社会福祉施設の理解	テキストによる該当箇所の予習	4時間
第2回	特殊教育諸学校の事前学習（特別支援学校） 特別支援学校の理解	特別支援教育の現状を調べておく。	4時間
第3回	体験する支援学校についての事前学習 介護体験に向けての学習	体験実習先の学校の詳細を調べ、整理しておく。	4時間
第4回	特殊教育諸学校での介護等体験（原則、2日以上） 介護体験の実習	実習校の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第5回	特殊教育諸学校での介護等体験（原則、2日以上） 介護体験の実習	実習校の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第6回	体験実習記録 体験実習の整理とまとめ	体験実習記録をまとめる	4時間
第7回	特別支援学校体験の反省 特別支援学校の事後学習 体験の反省 特別支援学校の事後学習 介護体験の振り返り	体験実習記録の整理 日本の社会福祉制度を調べておく	4時間
第8回	社会福祉施設の前学習 社会福祉施設に向けての学習	テキストの該当箇所を予習	4時間

第9回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第10回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第11回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第12回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第13回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第14回	介護体験のまとめ 社会福祉施設での介護体験の振り返りとまとめ	事後発表の準備を進める。	4時間
第15回	事後学習 事後学習 各班で社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をパワーポイントで発表し相互理解を深める。提出書類を提出する。	社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をまとめる	4時間